

第3章 アンケート結果

第1節 概要

1. 目的

本事業の評価と感染防護具を使用した受益者の状況を把握することを目的とした。

2. 研究計画・方法

1) 研究対象者

訪問看護ステーション、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、看護多機能型居宅介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、療養通所介護（2021年8月6日、対象拡大）において、下記が疑われ、新型コロナウイルス感染症の感染防護具を必要と判断した場合を対象とした。

- ・療養者（またはその同居家族）が新型コロナウイルスに感染した場合
- ・療養者（またはその同居家族）が新型コロナウイルスに感染した疑いのある場合
- ・療養者（またはその同居家族）が新型コロナウイルス感染症による入院から退院してきた場合

2) 研究デザイン

プロジェクト評価、量的調査(事前・事後調査)

3) 研究方法

Google フォームでのオンライン調査票にて、申請時の事前調査と、約2週間後の事後調査を行った。

(1) 申請書フォーム兼事前アンケート用紙

①申請書フォーム（必須事項）

- ・事業所名、事業所番号、申請者氏名、住所、メールアドレス、電話番号

②事前アンケート（申請者の自由意思による調査）

(2) 事後報告 兼 事後アンケート用紙

①事後報告フォーム（必須事項）

- ・申請者氏名、メールアドレス
- ・日本財団・メットライフ生命保険（支援者）の要請項目（使用者の性別、保険の負担割合、低所得（生活保護）、中所得、高所得状況

②事後アンケート（申請者の自由意思による調査）

(3) 研究期間

2020年7月27日～2021年10月29日 ※資材配布をする期間

(4) 分析方法

記述統計

(5) 研究における倫理的配慮について

①対象者等の人権への配慮

調査実施について、調査への協力は自由意思によるものとし、調査研究に対して研究目的や方法、結果の処理について申請書上で説明する。調査への協力についてはオンライン調査票でチェックをいただくことで了承を得る旨、説明する。

分析に使用するデータは無記名とし、個人や施設が特定されないよう配慮する。また、調査への協力の有無による不利益を被ることがないこと、調査結果は研究の目的以外には使用しないこと、データの管理は記号化、数値化などの方法をとることにより個人が特定されないよう十分に配慮する旨、文書で説明する。また、研究終了後には紙媒体のデータは破棄し、情報の流出を防止する。

②対象者等に不利益及び危険が生じないための配慮

オンライン調査であり、大きな不利益にはつながらないとする。また、突然の依頼であり、申請の中で調査をお願いすることから、時間的、精神的な負担が生じる可能性がある。しかし、回答時間は5分以内を目安としていることから、大きな負担を課すものとは考えていない。

回答者の負担を考慮し、項目を限定し、できるだけ負担が生じないような配慮を行った。

③対象者等に理解を求め、同意を得る方法

回答者について、研究協力（同意）を得るために、オンラインフォームに依頼文書を掲載し、文書を持って説明する。同意欄にチェックをいただくことで同意とみなす。回答者には、問い合わせには十分対応することを依頼書に明記する。

④対象者に係る個人情報の適正取得、正確性、安全管理体制等

個人情報は申請された資料を適切に送付する目的にのみ使用され、研究者は匿名化された情報のみを取り扱う。匿名化されたデータはパスワード保護が可能なクラウドストレージ（google ドライブ）に保存し、分析に関わる者で、本研究の研究代表者が認めた者のみがアクセス可能とする。

第2節 結果

1. 事前アンケート結果

申請書フォームと事前アンケートを Google フォームでの Web を活用し①～④を条件として、実施した(巻末資料3)。①備蓄目的でないこと②療養者の性別・保険料の自己負担割合回答できること③事前・事後アンケートに回答すること④(申し込み者が介護職の方の場合)医師や看護師にアンケートの回答に関して承認を得ることとした(2021年よりこの項目は削除した)。

申請書フォーム(必須事項)の事業所名、事業所番号、申請者氏名、住所、メールアドレス、電話番号以下の設問は、申込に必要な個人情報の為、データは掲載していない。

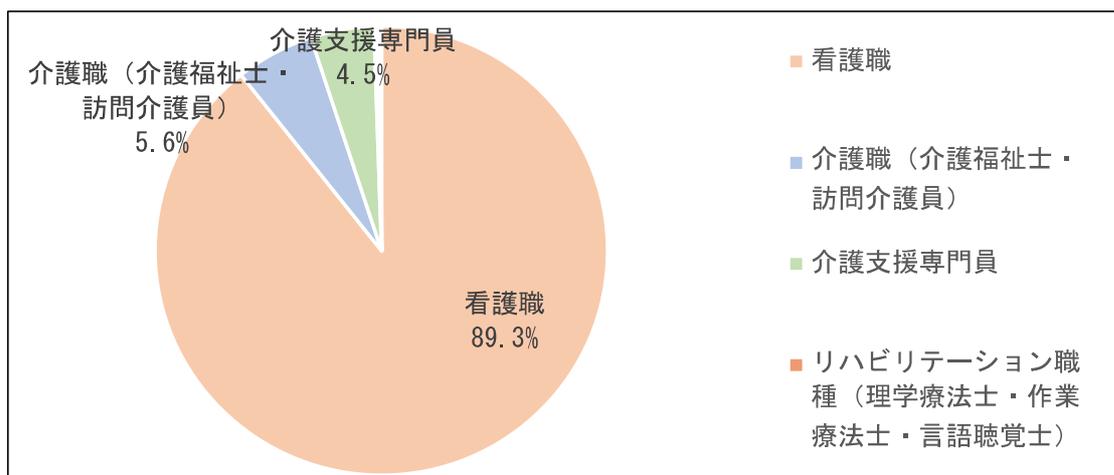
事前アンケートの回収率は3,168件の100%であった。

1) 申し込み事業所・療養者などの状況

①事業所管理者の職種

事業所管理者の職種は、看護職が最も多く89.3%(2,803人)で、次いで介護職(介護福祉士・訪問介護員)5.6%(176人)、次いで介護支援専門員4.5%(142人)であった。

図表8 事業所管理者の職種 (n=3,138)

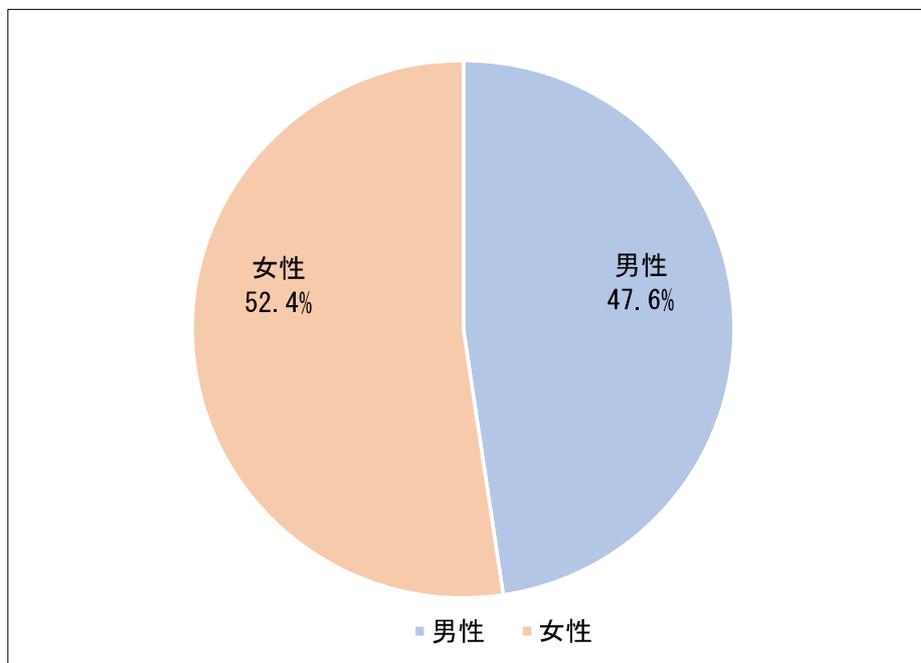


事業所管理者の職種	人数	割合
看護職	2,803	89.3%
介護職(介護福祉士・訪問介護員)	176	5.6%
介護支援専門員	142	4.5%
リハビリテーション職種(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)	8	0.3%
代表取締役	4	0.1%
社会福祉士	2	0.1%
経営者	1	0.0%
医師	1	0.0%
管理者	1	0.0%

②療養者の性別

療養者の性別は、男性 47.6%(1,495 人)で、女性 52.4%(1,643 人)であった。

図表 9 療養者の性別 (n=3,138)

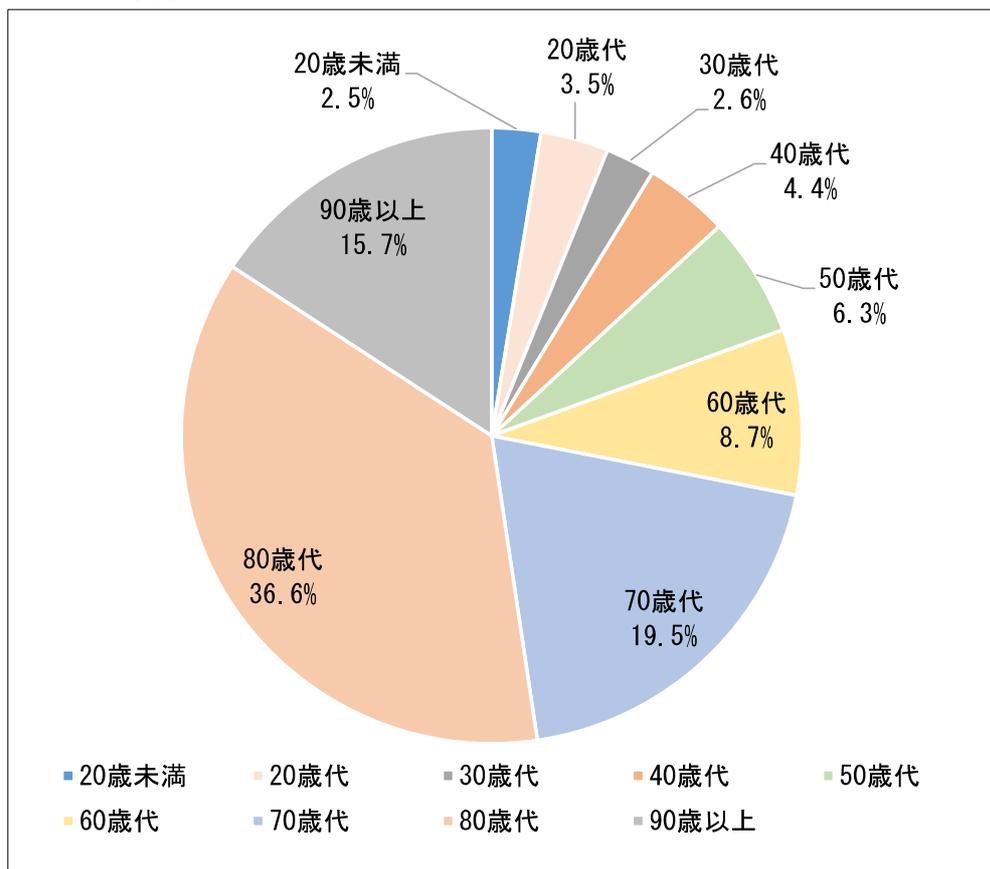


性別	人数	割合
男性	1,495	47.6%
女性	1,643	52.4%

③療養者の年代

療養者の年代は、80歳代が最も多く36.6%(1,149人)で、次いで70歳代19.5%(613人)、次いで90歳以上で15.7%(494人)であった。

図表 10 療養者の年代 (n=3,138)

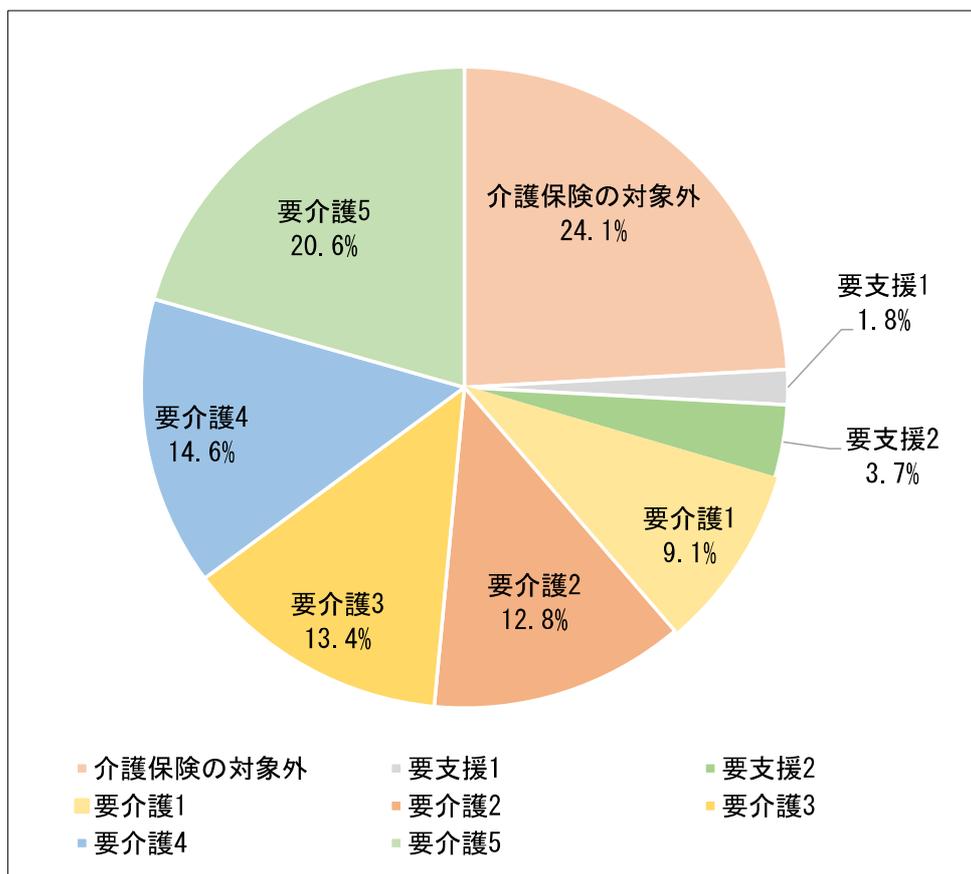


年代	人数	割合
20歳未満	80	2.5%
20歳代	111	3.5%
30歳代	81	2.6%
40歳代	139	4.4%
50歳代	198	6.3%
60歳代	273	8.7%
70歳代	613	19.5%
80歳代	1,149	36.6%
90歳以上	494	15.7%

④療養者の要介護度

療養者の介護度は、要介護度 5 が最も多く 20.6%(645 人)で、次いで要介護 4 が 14.6%(458 人)、次いで要介護 3 が 13.4%(419 人)であった。

図表 11 療養者の要介護度 (n=3, 138)

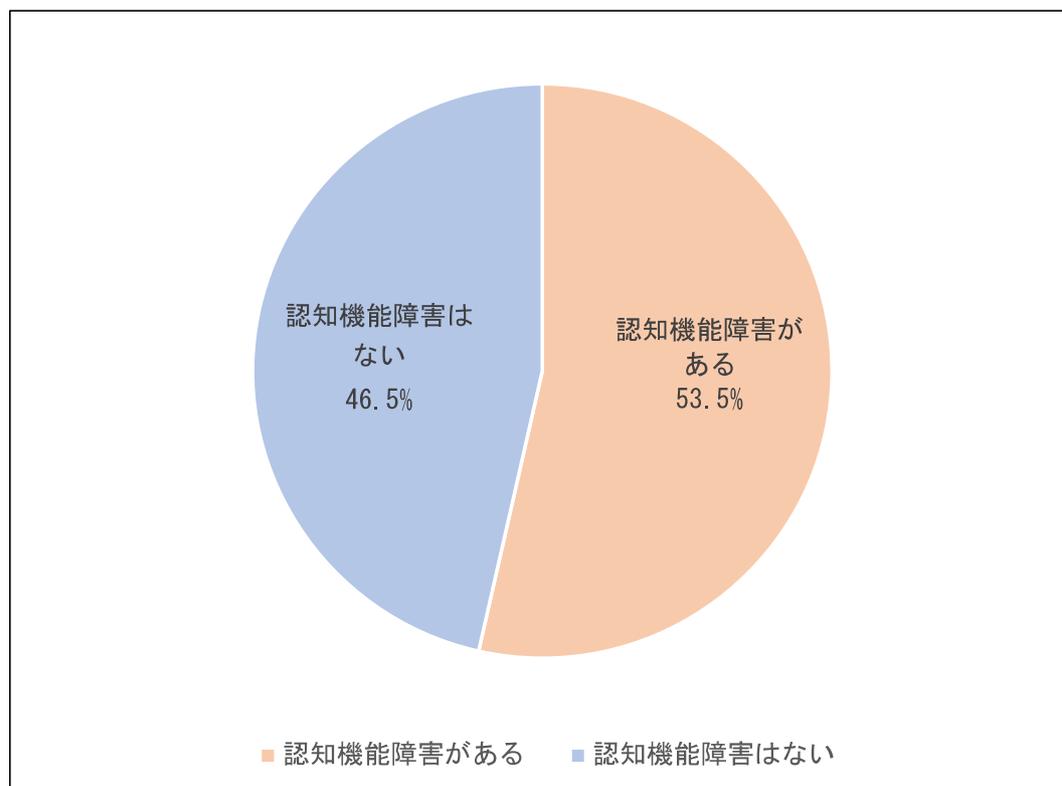


介護度	人数	割合
介護保険の対象外	757	24.1%
要支援 1	55	1.8%
要支援 2	116	3.7%
要介護 1	287	9.1%
要介護 2	401	12.8%
要介護 3	419	13.4%
要介護 4	458	14.6%
要介護 5	645	20.6%

⑤療養者の認知機能障害

療養者の認知機能障害は、認知機能障害がある 54.0%(1,596 人)で、認知機能障害はない 46.0%(1,386 人)であった。

図表 12 療養者の認知機能障害 (n=3, 138)

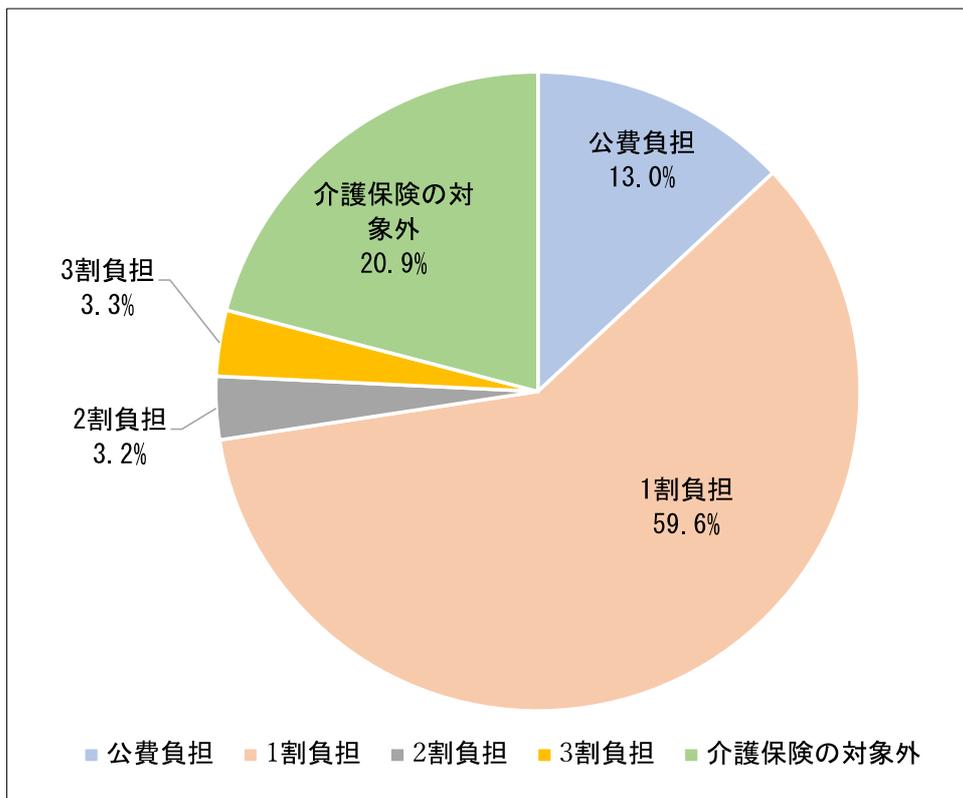


療養者の認知機能障害	人数	割合
ある	1,596	54.0%
ない	1,386	46.0%

⑥療養者の介護保険自己負担割合

療養者の介護保険の自己負担割合は、一割負担が最も多く 59.6%(1,869 人)で、次いで介護保険の対象外が 20.9% (656)、次いで公費負担負担が 13.0%(408 人)であった。

図表 13 介護保険の自己負担割合 (n=3, 138)

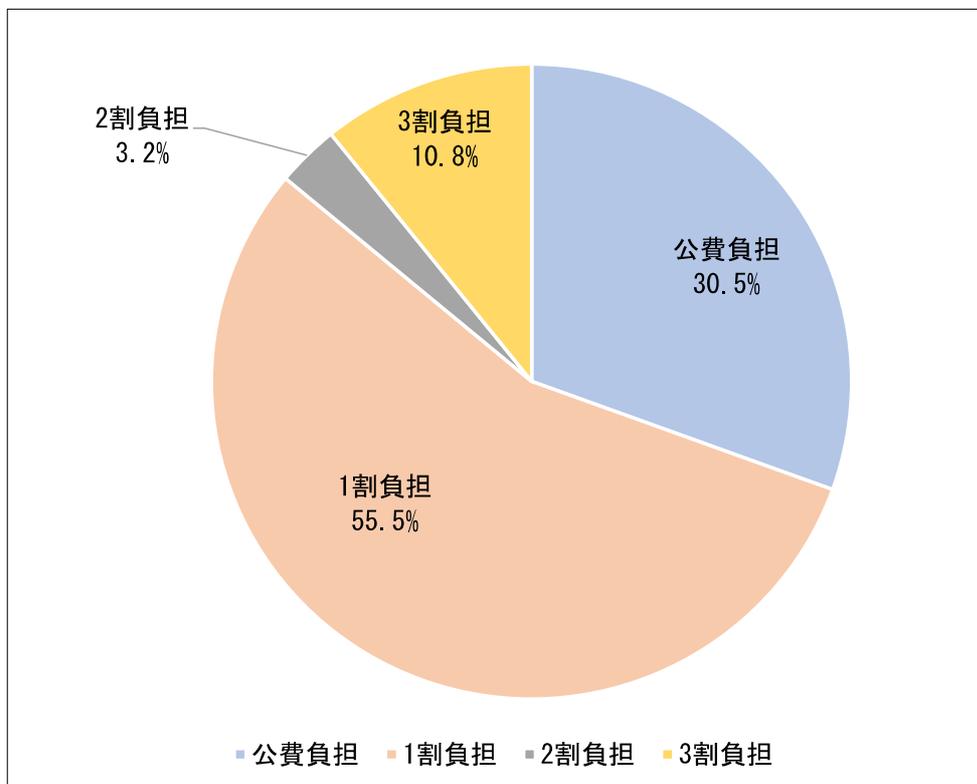


介護保険の自己負担割合	人数	割合
公費負担	408	13.0%
1割負担	1,869	59.6%
2割負担	100	3.2%
3割負担	105	3.3%
介護保険の対象外	656	20.9%

⑦療養者の医療保険（健康保険等）自己負担割合

療養者の介護保険の自己負担割合は、一割負担が最も多く 55.5%(1,742 人)で、次いで公費負担が 30.5%(958 人)、次いで 3 割負担が 10.8%で%(338 人)であった。

図表 14 療養者の医療保険（健康保険等）の自己負担割合 (n=3,138)

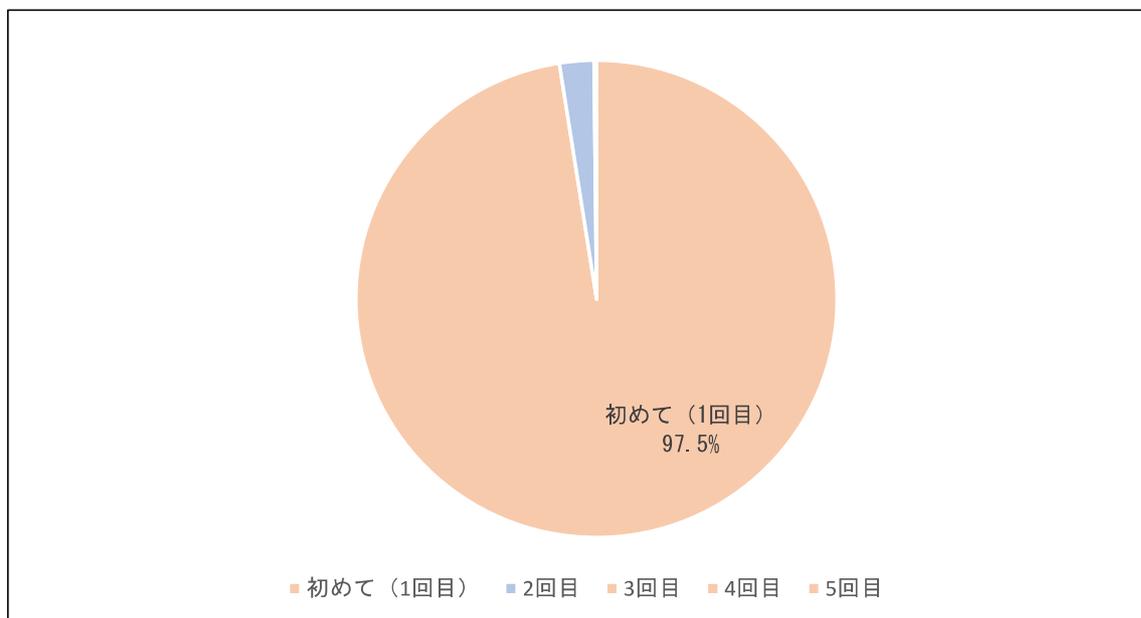


医療保険の自己負担割合	人数	割合
公費負担	958	30.5%
1割負担	1,742	55.5%
2割負担	100	3.2%
3割負担	338	10.8%

⑧対象となる療養者について感染防護具の申請回数

感染防護具の申請は、初めて（1回目）が最も多く 97.5%(2,959 人)で、次いで2回目が 2.35%(70 人)、次いで3回目が 0.1%で(3 人)であった。

図表 15 対象となる療養者について感染防護具の申請回数 (n=3,034)



この申請の対象となる療養者について感染防護具の申請をするのは何回目ですか？	人数	割合
初めて（1回目）	2,959	97.5%
2回目	70	2.3%
3回目	3	0.1%
4回目	1	0.0%
5回目	1	0.0%

⑨対象となる療養者の状況（複数選択）

対象となる療養者の状況は、療養者に感染を疑わせる症状があるが最も多く 32.0% (1,192 人)で、次いで療養者が感染者の接触者となったが 24.1% (898 人)、次いで療養者が感染し、自宅療養（PCR 検査陽性）が 10.9% (407 人)であった。

図表 16 対象となる療養者の状況（複数選択）（n=3,138）

対象となる療養者の状況（複数選択）	人数	割合
療養者に感染を疑わせる症状がある	1,192	32.0%
療養者が感染者の接触者となった	898	24.1%
療養者が感染し、自宅療養（PCR検査陽性）	407	10.9%
療養者の同居家族が濃厚接触者となった（経過観察中）	337	9.1%
感染地域から介護者（家族）が帰省	328	8.8%
療養者の同居家族が感染し、自宅療養（PCR検査陽性）	204	5.5%
療養者が感染後（入院治療後、退院）	187	5.0%
療養者の同居家族が感染後（入院治療後、退院）	73	2.0%
施設内での感染（疑い含む）	32	0.9%
吸引をしている	24	0.6%
療養者の同居家族感染を疑わせる症状がある	8	0.2%
療養者にかかわるヘルパーが陽性になった	7	0.2%
療養者にかかわるヘルパーが感染者の接触者となった	4	0.1%
エアロゾル感染の恐れ	2	0.1%
療養者にかかわるヘルパーに感染を疑わせる症状がある	1	0.0%
その他	19	0.5%

⑩前問で回答した状況が最初に発生した日

前問で回答した状況が最初に発生した日は、2020年12月・2021年1月・3月・5月・7月・8月が最も多く31人で、次いで2020年11月が30人、次いで2020年7月・9月・2021年4月が29人であった。

図表 17 前問で回答した状況が最初に発生した日 (n=3, 138)

発生した月	人数	発生した月	人数	発生した月	人数
1976年7月	1	2016年10月	1	2020年7月	29
1999年4月	1	2016年11月	1	2020年8月	31
2000年8月	1	2017年7月	1	2020年9月	29
2001年4月	1	2018年4月	3	2020年10月	24
2005年8月	1	2019年1月	1	2020年11月	30
2010年7月	1	2019年2月	1	2020年12月	31
2010年12月	1	2019年3月	2	2021年1月	31
2011年1月	1	2019年6月	3	2021年2月	26
2012年1月	1	2019年8月	2	2021年3月	31
2012年8月	3	2019年12月	2	2021年4月	29
2012年12月	1	2020年1月	15	2021年5月	31
2014年10月	1	2020年2月	5	2021年6月	28
2015年6月	1	2020年3月	13	2021年7月	31
2015年8月	1	2020年4月	21	2021年8月	31
2015年12月	1	2020年5月	15	2021年9月	27
2016年6月	1	2020年6月	10	2021年12月	1
				入力間違い	12

⑪対象となる療養者の症状（複数選択）

対象となる療養者の症状は、体温が普段より高いが最も多く 23.8%（1,532 人）で、次いで通常と変わらないが 17.2%（1,109 人）、次いで咳が 12.3%（793 人）であった。

図表 18 対象となる療養者の症状（複数選択）（n6, 443）

対象となる療養者の症状（複数選択）	回答数	割合
体温が普段より高い	1,532	23.8%
通常と変わらない	1,109	17.2%
咳	793	12.3%
倦怠感	724	11.2%
酸素飽和度が普段より低い	632	9.8%
痰	608	9.4%
呼吸困難感	353	5.5%
頭痛	159	2.5%
筋肉痛	98	1.5%
味覚異常	65	1.0%
嗅覚異常	26	0.4%
無症状	3	0.0%
上記以外	341	5.3%

⑫対象となる療養者の平熱

対象となる療養者の平熱は 36.0-36.4 度が最も多く 47%（1474 人）、次いで 36.5-36.9 度が 43%（1349 人）、次いで 35.5-35.9 度が 6.4%（201 人）となった。

図表 19 対象となる療養者の平熱（n=3, 138）

対象となる療養者の平熱	人数	割合
34.9 以下	2	0.1%
35.0-35.4	24	0.8%
35.5-35.9	201	6.4%
36.0-36.4	1,474	47.0%
36.5-36.9	1,349	43.0%
37.0-37.4	71	2.3%
37.5-37.9	11	0.4%
38 以上	6	0.2%

⑬対象となる療養者の体温

対象となる療養者の体温は36.5-36.9度が最も多く34.3%（897人）、次いで36.0-36.4度が15.9%（415人）、次いで37.5-37.9度が15.1%（395人）となった。

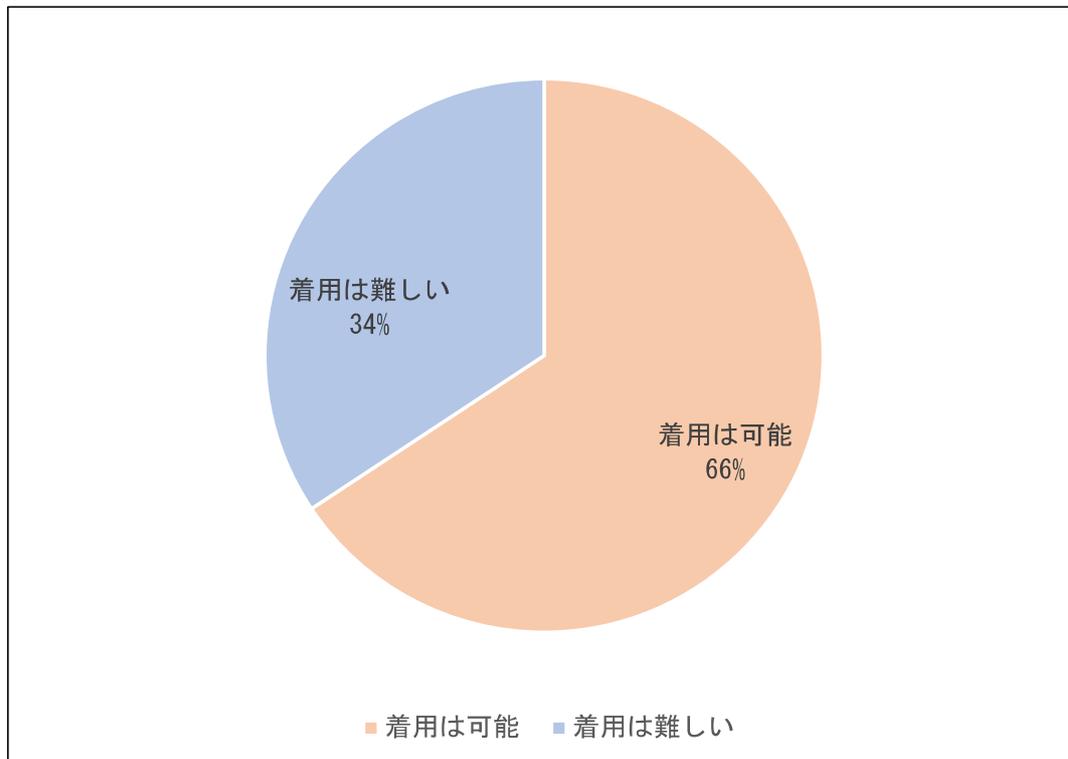
図表 20 対象となる療養者の体温（n=2,618）

対象となる療養者の体温	人数	割合
34.9 以下	5	0.2%
35.5-35.9	70	2.7%
36.0-36.4	415	15.9%
36.5-36.9	897	34.3%
37.0-37.4	42	1.6%
37.5-37.9	395	15.1%
38.0-38.4	361	13.8%
38.5-.38.9	242	9.2%
39.0-39.4	125	4.8%
39.5-40	42	1.6%
40 度以上	24	0.9%

⑭療養者のマスク着用

療養者のマスク着用は、着用は可能が 65.7% (1,975 人)、着用は難しいが 34.3% (1,032 人) であった。

図表 21 療養者のマスク着用 (n=3, 007)

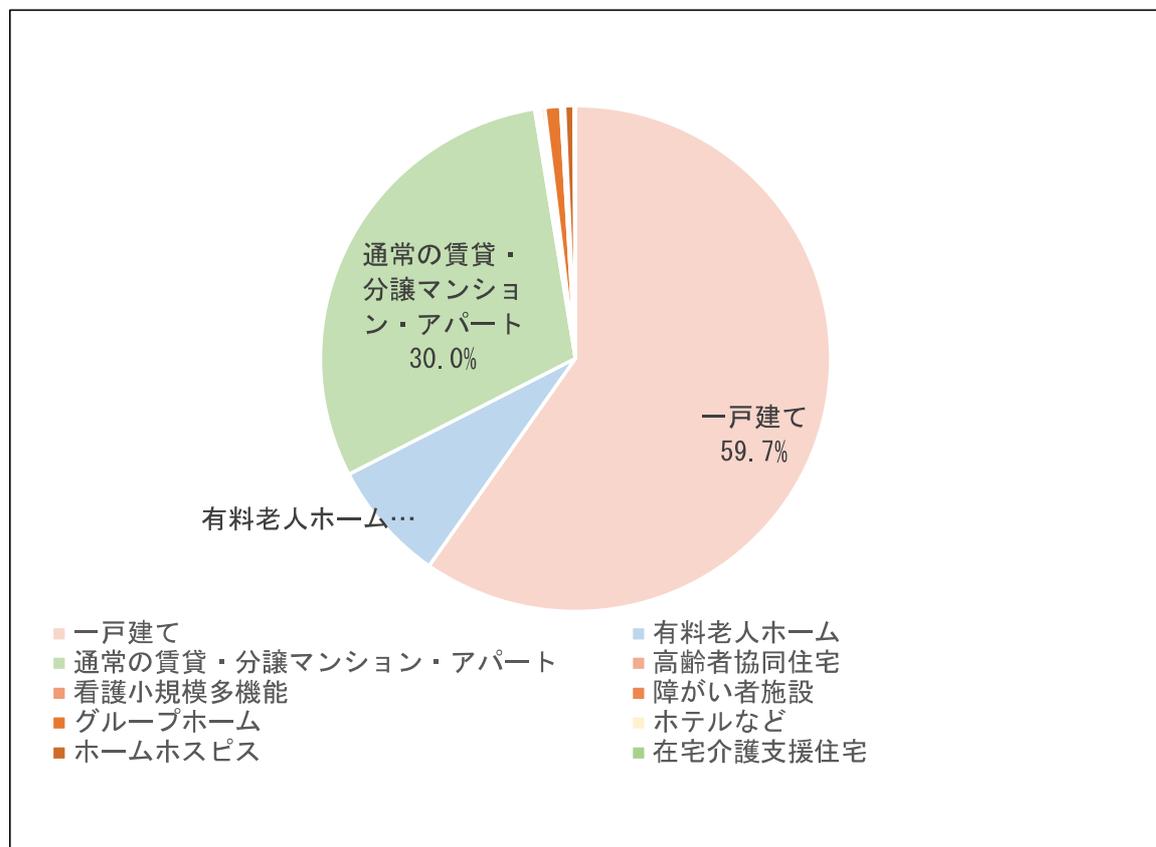


療養者のマスクの着用	人数	割合
着用は可能	1,975	65.7%
着用は難しい	1,032	34.3%

⑮対象となる療養者の居住場所

対象となる療養者の居住場所は、一戸建てが最も多く 59.7% (1,812 人)、次いで通常の賃貸・分譲マンション・アパートが 30.0% (910 人)、次いで有料老人ホームが 7.7% (234 人) であった。

図表 22 対象となる療養者の居住場所 (n3,034)

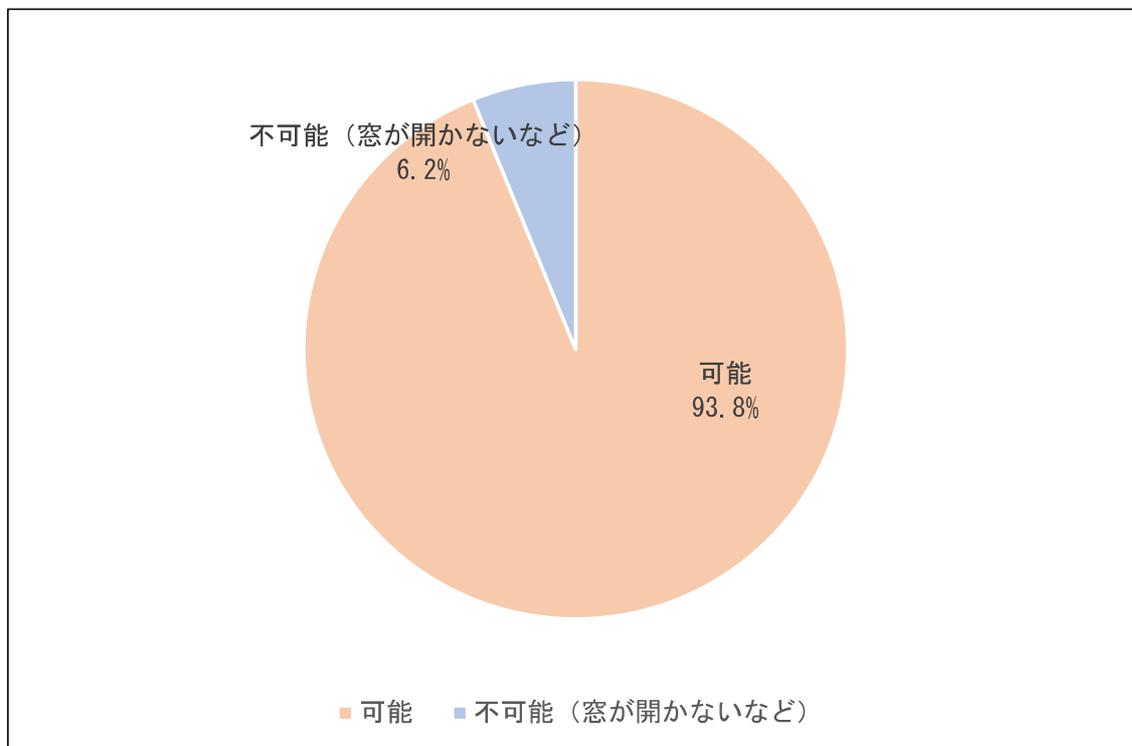


対象となる療養者の居住場所	人数	割合
一戸建て	1,812	59.7%
有料老人ホーム	234	7.7%
通常の賃貸・分譲マンション・アパート	910	30.0%
高齢者協同住宅	6	0.2%
看護小規模多機能	6	0.2%
障がい者施設	7	0.2%
グループホーム	31	1.0%
ホテルなど	7	0.2%
ホームホスピス	18	0.6%
在宅介護支援住宅	2	0.1%
その他	1	0.03%

⑩療養者の居住場所における換気の可否

療養者の居住場所における換気の可否は、換気が可能が 94%（2,818 人）で、換気が不可能（窓が開かないなど）が 6%（185 人）であった。

図表番号 23 療養者の居住場所における換気の可否 (n=3, 003)

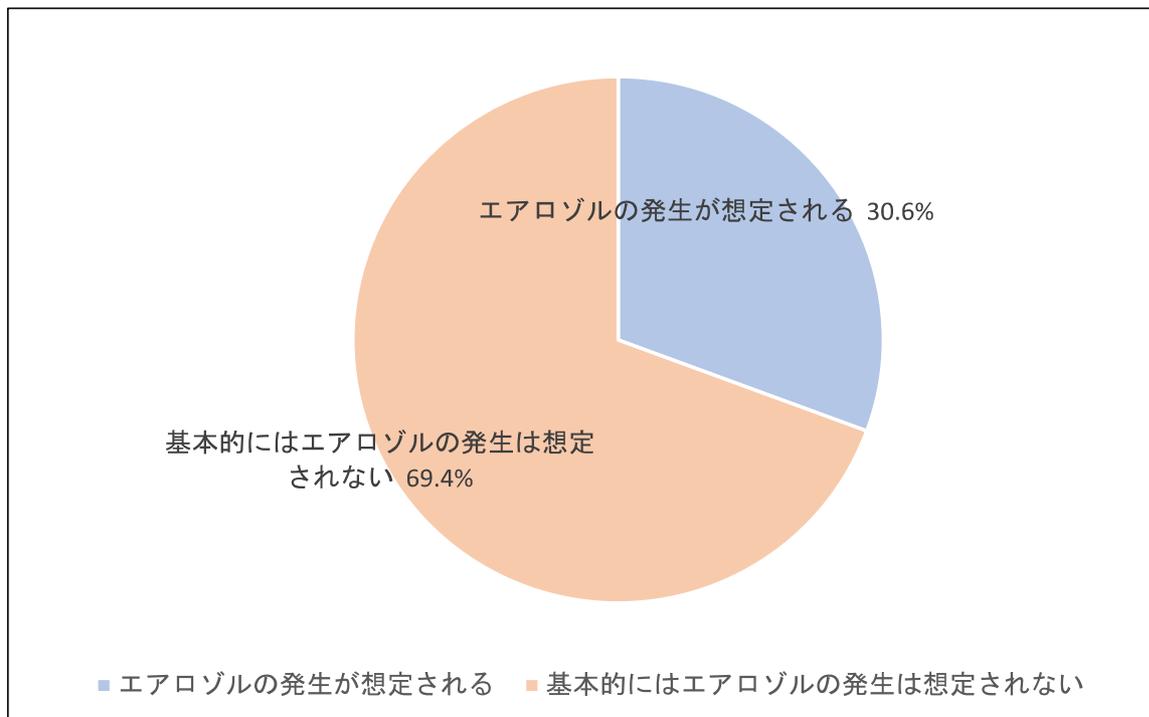


療養者の居住場所における換気の可否	人数	割合
可能	2,818	93.8%
不可能（窓が開かないなど）	185	6.2%

⑰ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性

ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性は、基本的にはエアロゾルの発生が想定されないが69% (2,070人)、エアロゾルの発生が想定されるが31% (914人)であった。

図表 24 ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性 (n=2,984)



ケア場面におけるエアロゾル発生の可能性	人数	割合
エアロゾルの発生が想定される	914	30.6%
基本的にはエアロゾルの発生は想定されない	2,070	69.4%

⑩その他の療養者の状況

現状で困っていることや事業所の状況など本回答は自由記載で、1,442 件の回答があった。内容は 12 項目に分類され以下に要約しまとめた。

・PPE に関して

「PPE が未だ不足している」「備蓄をしたい」「PPE を装着していると暑くて大変」「マスク・手袋が適正価格で販売されていない」「メガネが曇る」「急な発熱時に PPE を準備できない」などがあった。

・療養者・家族との対応に関して

「訪問時自宅内でマスクを着けていない」「独居でマスクを装着せず訪問する療養者がいて、不安」「マスクを装着するとコミュニケーションがしにくい」「利用者側から、訪問看護師が感染していないのか、安全なのか問い合わせがあり困る」「在宅での家族との共用部分の感染予防がむずかしい」「感染地域へ家族が訪問し、予防対策が大変」「療養者や家族に感染予防の意識が低い」「マスクをすると苦痛を訴えてマスクを装着してくれない」「小児はマスクを装着してくれない」「認知機能が低下している療養者がマスクを装着してくれないので困る」「家族への教育」「ターミナルケアの対象者の面会者が他県からきて不安がある」「家族全員がコロナに感染した」などであった。

・地域での情報共有に関して

「コロナ陽性者が出た場合、関係機関での状況共有がない」「地域でクラスターが発生しているが情報がない」「デイサービスやショートステイでクラスターが発生した」「デイサービスで療養者が濃厚接触者になったが、訪問看護まで情報がない」「地域でクラスターが発生すると怖い」などであった。

・医療機関・主治医に関して

「検査ができない」「主治医が積極的に PCR 検査をしてくれない」「病院の主治医がコロナ対応で忙しく、訪問看護の連携がしにくい」「医師が PCR 検査をしてくれないので、予防として PPE を装着している」「人工呼吸器の療養者への感染対策を徹底している」「PCR 検査を行うまでの交通手段がない」「入院先がない」「主治医が往診にこない」などであった。

・ケアに関して

「PPE をいつまで実施したらいいか、解除基準が不明確」「デルタ株など株による予防の違いがわからない」「発熱者に対する誤嚥性肺炎などとコロナとの違いへの対応に苦慮している」「感染対策が正しいか不安」「医療的ケア児へ感染対策をすることが難しい」「在宅でゾーニン」「換気ができない療養者への訪問が不安」「ゾーニングが難しい」「無症状で陽性者の対応が難しい」「感染ごみの破棄方法が不明」「訪問看護師が検体を採取している」「入浴介助時の感染対策が大変」「短い訪問にしたいが、点滴があり長くなる」などであった。

・感染の不安に関して

「コロナ陽性者が治療後退院したが、再発しそうで怖い」「看護師が感染し、濃厚接触者の範囲が困る」「職員が家庭内感染について心配している」「感染経路がわからず不安」などであった。

・事業所の経営・運営に関して

「小さな訪問看護事業所でスタッフがコロナに感染したら倒産にしそうで怖い」「訪問看護師が感染者に対応すると、他の療養者に訪問スタッフが限られ、スタッフが不足する」「スタッフが濃厚接触

者で休むと、利用者に行けるスタッフがいない」「人員不足」「小規模事業所では、物資の高騰や不足による準備ができない」「風評被害で、スタッフがコロナ陽性となり、訪問を開始したが訪問に支障がでて」「コロナ前と感染対策に係る予算が3倍になっている」などであった。

・施設サービスに関して

「サービス付き高齢者住宅でのクラスター」「通所サービス利用者の濃厚接触者の判定基準がまちまちである」「グループホーム内でのクラスター」などであった。

・保健所等に関して

「濃厚接触者で PCR 検査の結果がでるまでの対応が困る」「保健所や医師と話し合い陽性者が在宅で看取りをする事になり、看取りまでに感染が拡大しないか不安」「役所や保健所の対応が不満」などであった。

・スタッフのコロナ対応への不安・ストレスに関して

「スタッフや管理者が、コロナ対応した際の恐怖」「スタンダードプリコーションを徹底していても感染する可能性があることの恐怖」「発熱者が多すぎて予防で PPE を装着するケースが多くストレス」「PPE を装着しての長時間ケアは重労働である」「看護師のメンタル」

「濃厚接触者へ訪問した看護師が、他の利用者に訪問する際の対応に苦慮する」「感染防護しながらのケアを心身共にストレスである」「職員の疲弊」「常に緊張していてストレス」

「コロナ対応について新人看護師の不安が強い」「自分の家族に菌を運んでいないか不安」

「ウイルスが目に見えないので不安」「医療従事者としての媒介者にならないか不安」「外国人への対応がわからない」などであった。

・訪問介護員に関して

「ヘルパーさんの感染予防対策ができていない」「訪問介護が感染の可能性があるので、訪問しないと困る」「訪問介護の感染予防に対する知識不足」「介護スタッフとの感染対策に対する知識の違い」などであった。

・ワクチン接種に関して

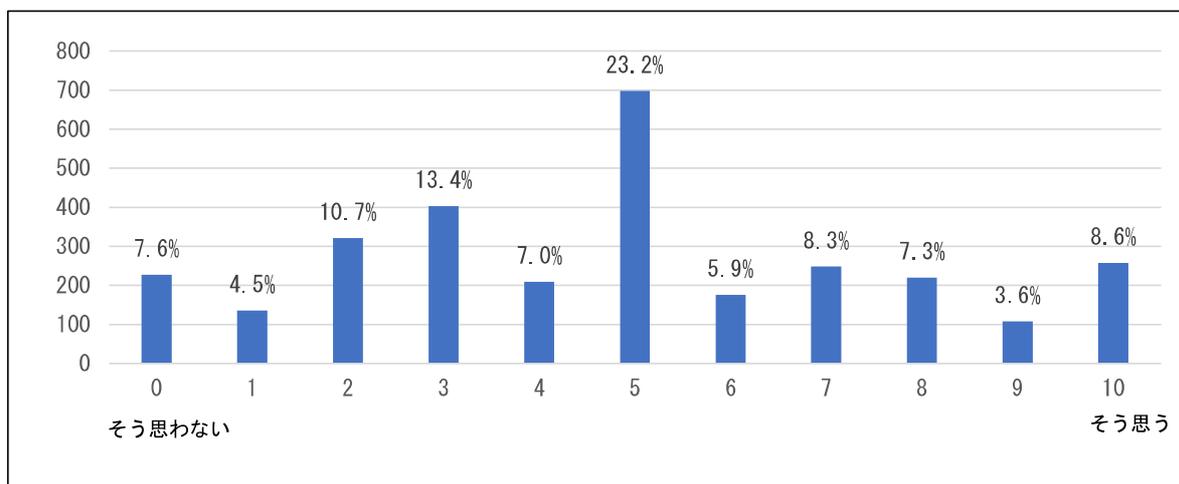
「利用者や家族がワクチンを拒否していて、訪問するのが不安」などであった。

以上。

⑩スタッフの安心感

(今回対象となる療養者に限らず) 全体として、スタッフが安心して利用者の家に訪問できると思うかは、5 が最も多く 23.2% (698 人)、次いで 3 が 13.4% (403 人)、次いで 2 が 10.7% (321 人) であった。

図表 25 スタッフの安心感



(今回対象となる療養者に限らず) 全体として、スタッフが安心して利用者の家に訪問できると思うか	人数	割合
そう思わない 0	227	7.6%
1	136	4.5%
2	321	10.7%
3	403	13.4%
4	209	7.0%
5	698	23.2%
6	176	5.9%
7	248	8.3%
8	220	7.3%
9	108	3.6%
そう思う 10	258	8.6%

2. 事後アンケート結果

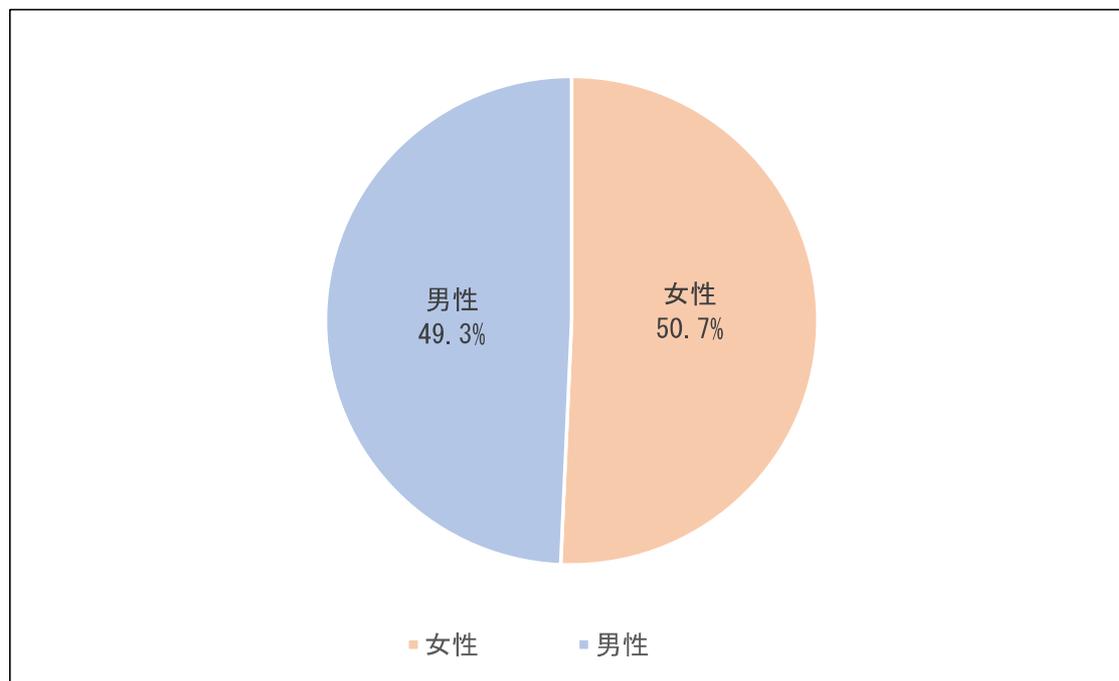
事後アンケートは登録されたメールアドレスに Google フォームでの Web アンケートを送信した(巻末資料4)。時期は、感染防護具を発送した 2 週間後に実施し、催促メールをその 2 週間後に送信した。事後アンケートの回収率は、2,636 件の 82.8%であった。

1) 療養者、家族の状況

①療養者の性別

療養者の性別は、女性が 50.7% (1,337 人) で、男性が 49.3% (1,300 人) であった。

図表 26 療養者の性別 (n2, 637)

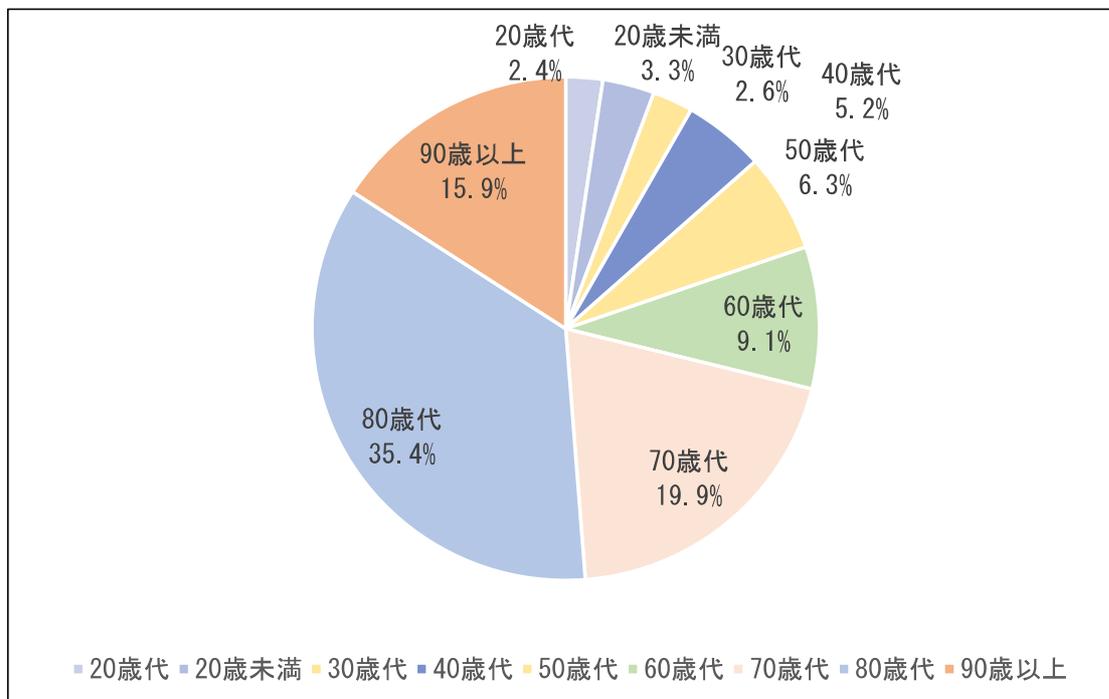


療養者の性別	人数	割合
女性	1,337	50.7%
男性	1,300	49.3%

②療養者の年代

療養者の年代は80歳代が最も多く35.4%（933人）、次いで70歳代が19.9%（525人）、次いで90歳以上が15.9%（418人）であった。

図表 27 療養者の年代（n=2,637）

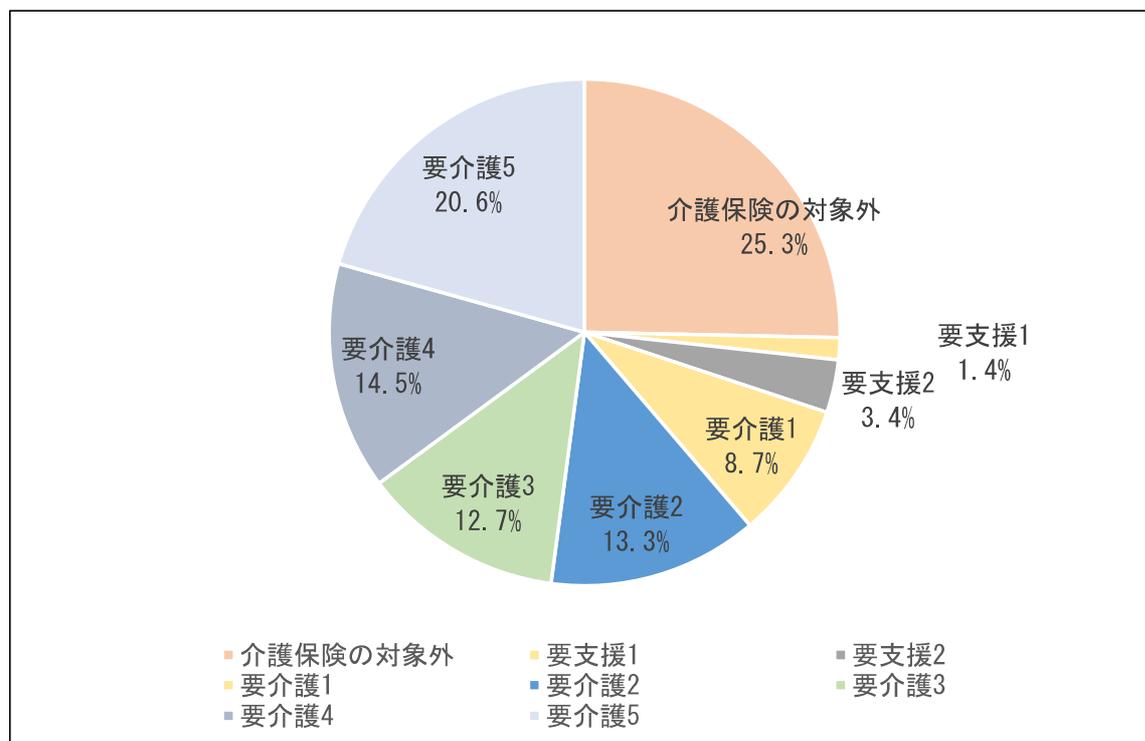


療養者の年代	人数	割合
20歳代	62	2.4%
20歳未満	87	3.3%
30歳代	68	2.6%
40歳代	137	5.2%
50歳代	167	6.3%
60歳代	240	9.1%
70歳代	525	19.9%
80歳代	933	35.4%
90歳以上	418	15.9%

③療養者の介護度

療養者の介護度は、介護保険の対象外が最も多く 25.3%（668 人）で、次いで要介護 5 が 20.6%（544 人）、次いで要介護 4 が 14.5%（383 人）であった。

図表 28 療養者の介護度（n=2,637）



療養者の介護度	人数	割合
介護保険の対象外	668	25.3%
要支援 1	37	1.4%
要支援 2	89	3.4%
要介護 1	229	8.7%
要介護 2	351	13.3%
要介護 3	336	12.7%
要介護 4	383	14.5%
要介護 5	544	20.6%

④対象となった療養者の現在の状況

対象となった療養者の現在の状況は、治癒が最も多く 48.4% (1,182 人) で、次いで設問以外の回答が 27.2% (663 人)、次いで入院 (入院後治癒した方も含む) が 14.0% (342 人) であった。

図表 29 対象となった療養者の現在の状況 (n=2, 441)

対象となった療養者の現在の状況	人数	割合
治癒	1,182	48.4%
入院 (入院後治癒した方も含む)	342	14.0%
死亡	167	6.8%
自宅療養中	87	3.6%
設問以外の回答	663	27.2%

⑤新型コロナウイルス感染症の診断

当該療養者の今回の診断は新型コロナウイルス感染症だった人数は、29.0% (598 人) で、その他の人数は、71.0% (1,461 人) であった。

図表 30 新型コロナウイルス感染症の診断結果 (n=2, 059)

療養者の新型コロナウイルス感染症の結果	人数	割合
新型コロナウイルス感染症だった	598	29.0%
その他	1,461	71.0%

⑥療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の診断 (2021 年 3 月 4 日より設問に追加)

今回の申請が療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の疑いによるものだった場合、当該の家族や介護者の実際の診断は、新型コロナウイルス感染症だった人数が 40.9% (368 人)、その他の人数が 59.1% (532 人) であった。

図表 31 家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の診断結果 (n=900)

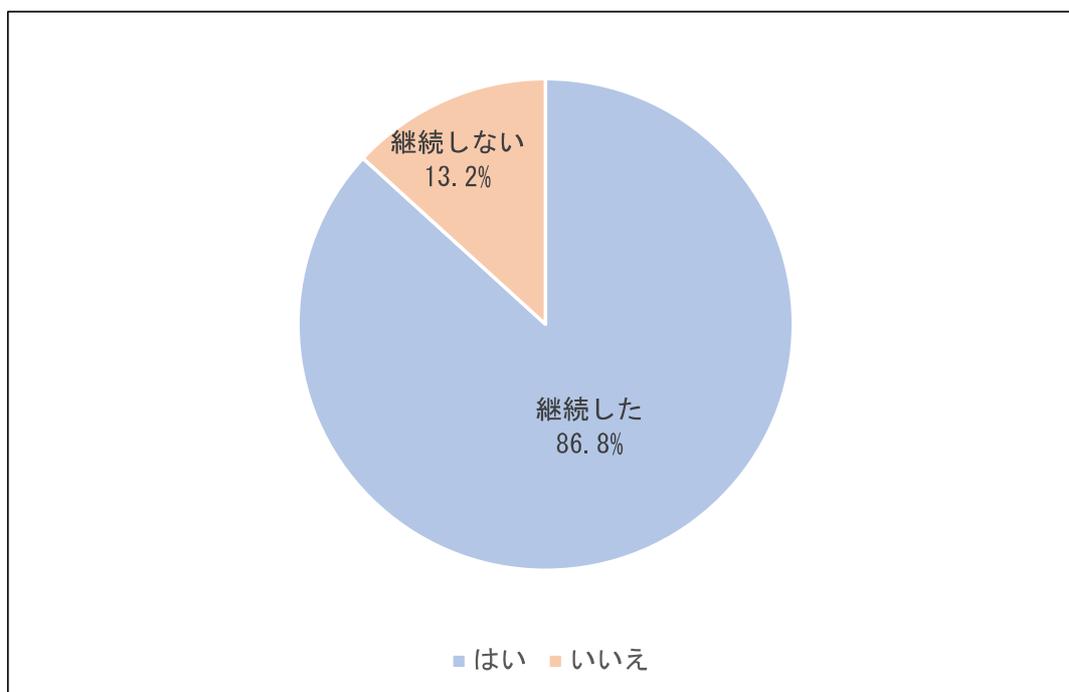
今回の申請が療養者の家族や介護者の新型コロナウイルス感染症の疑いによるものだった場合、当該の家族や介護者の実際の診断はいかがでしたか？	人数	割合
新型コロナウイルス感染症だった	368	40.9%
その他	532	59.1%

2) 事業所の体制

① 今回の申請理由となった療養者の訪問サービスの継続

今回の申請理由となった療養者は、継続してサービスを受けた人数が 86.8% (2,247 人) で、継続してサービスを受けなかった人数が 13.2% (341 人) であった。

図表 32 療養者のサービスの継続

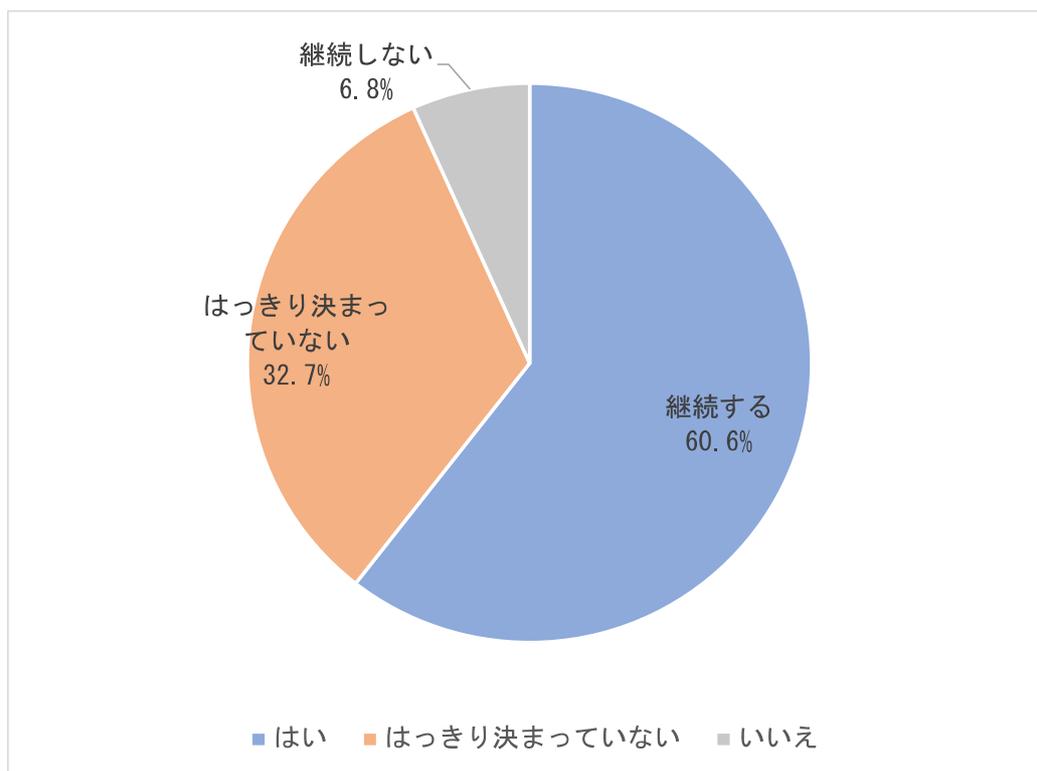


療養者のサービスの継続	人数	割合
継続した	2,247	86.8%
継続しない	341	13.2%

②療養者の新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の、当該利用者へのサービスの継続

今回の療養者への対応に限らず療養者に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合に、当該利用者へのサービスを継続することになっているに関して、継続する 60.6% (1,577 人)、はっきり決ま
っていない 32.7% (851 人) だった。

図表 33 療養者の新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の、当該利用者へのサービスの継続
(n=2,604)

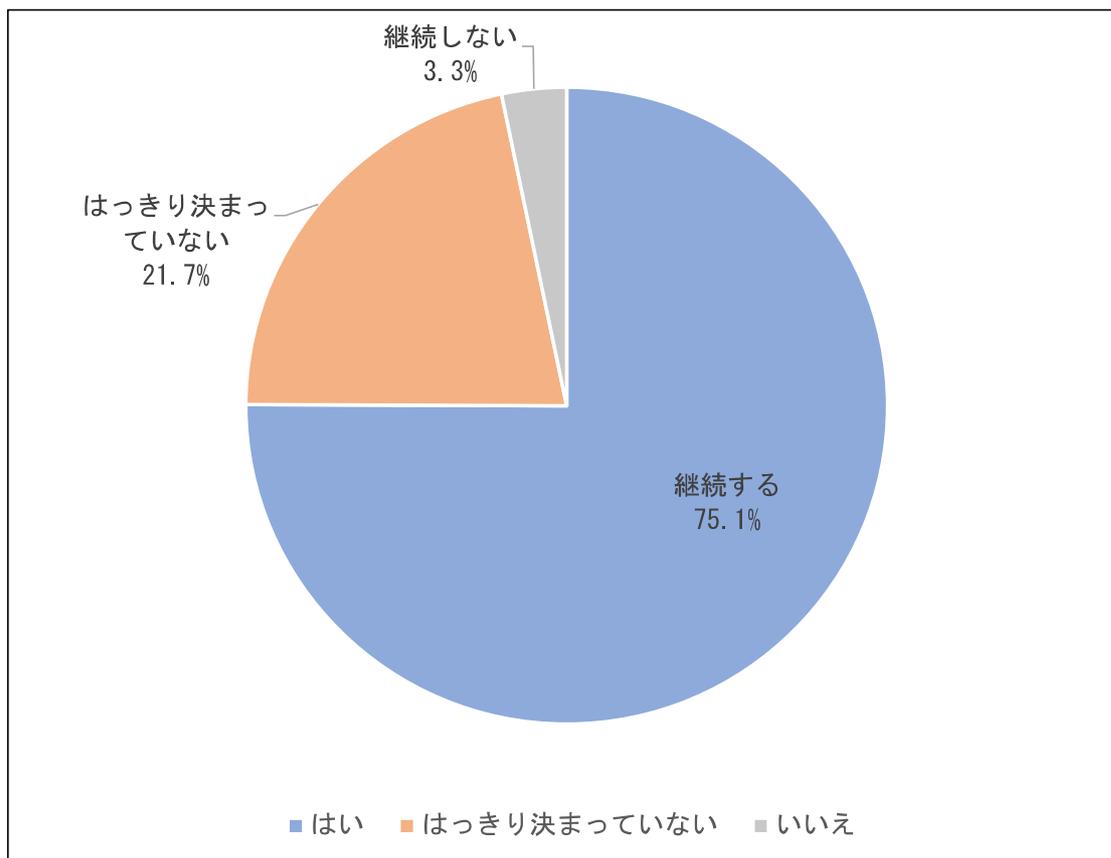


療養者の新型コロナウイルスの感染者が発生した 場合の、当該利用者へのサービスの継続	人数	割合
継続する	1,577	60.6%
はっきり決ま っていない	851	32.7%
継続しない	176	6.8%

③新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者がした場合のサービスの継続

新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者がした場合のサービスの継続発熱など、新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者がした場合に、当該利用者へのサービスを継続することになっているに関して、継続する 75.1% (1,957 人)、はっきり決まっていない 21.7% (565 人) だった。

図表 34 新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者がした場合のサービスの継続 (n=2,607)

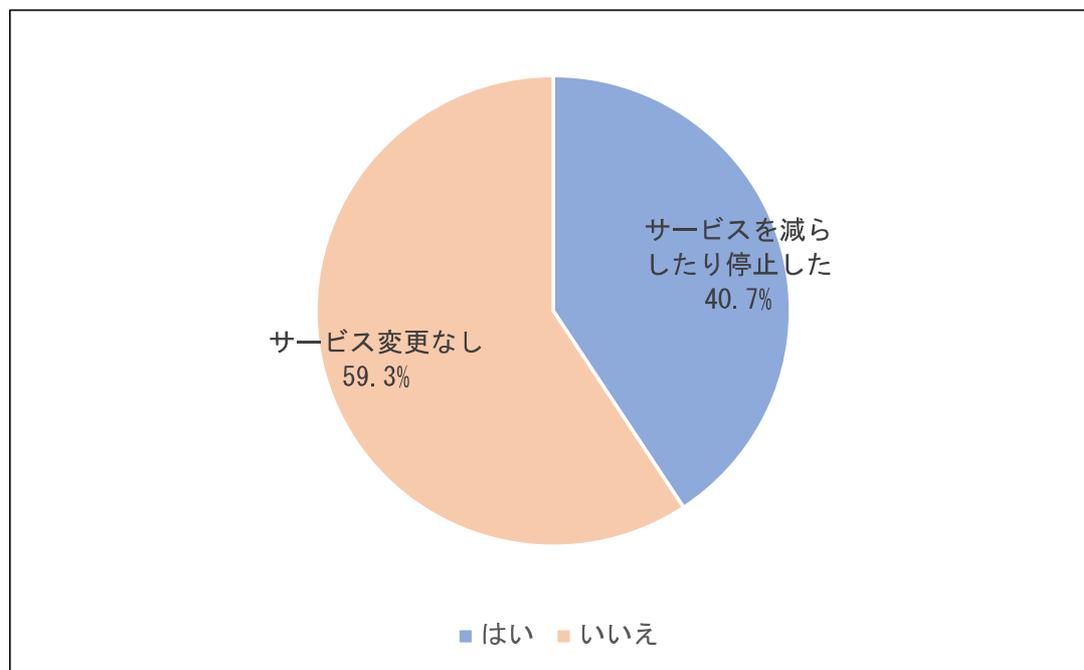


新型コロナウイルスへの感染を疑わせる症状を有する利用者がした場合のサービスの継続	人数	割合
継続する	1,957	75.1%
はっきり決まっていない	565	21.7%
継続しない	85	3.3%

④今回の療養者への対応前の、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービス

今回の療養者への対応より前に、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービスを減らしたり停止したことがあるかに関して、サービスを減らしたり停止した 40.7% (1,064 人)、サービス変更なし 59.3% (1,548 人) だった。

図表 35 今回の療養者への対応前の、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービス (n=2,612)



今回の療養者への対応より前に、感染者・濃厚接触者・感染疑いのある療養者へのサービスを減らしたり停止したりしたことがありますか。	人数	割合
サービスを減らしたり停止した	1,064	40.7%
サービス変更なし	1,548	59.3%

⑤サービス減少・停止の経験の理由

サービスの減少・停止の経験の理由には、感染への不安が最も多く 36.8% (393 人)、次いでその他 (設問以外の回答) が 24.2% (259 人)、次いで知識やノウハウの不足が 12.4% (133 人) であった。

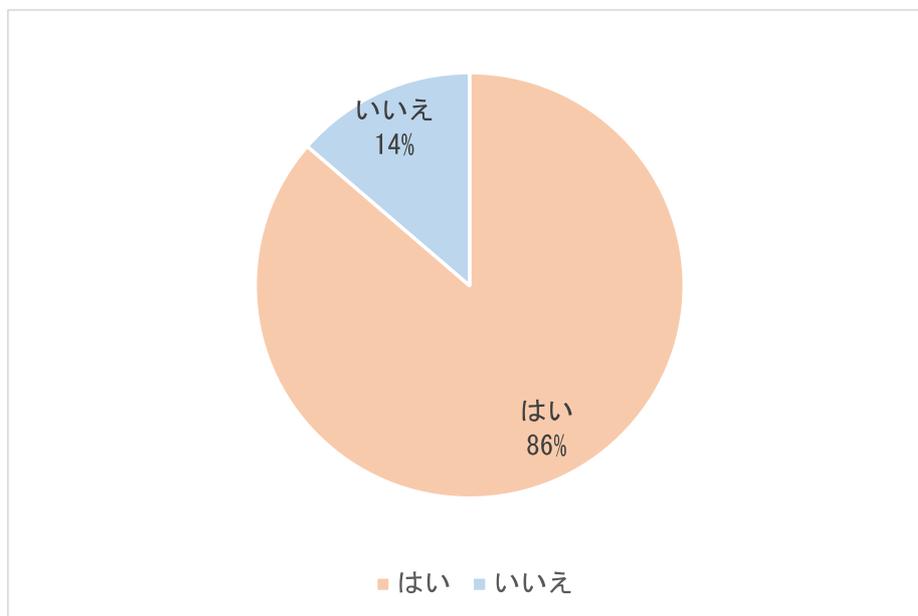
図表 36 サービス減少・停止の経験の理由 (n=1,069)

サービス減少・停止の経験の理由	人数	割合
感染への不安	393	36.8%
知識やノウハウの不足	133	12.4%
人材の不足	131	12.3%
感染防護具の不足	61	5.7%
家族	36	3.4%
リスクを下げるため	30	2.8%
医師	10	0.9%
保健所	9	0.8%
入院	7	0.7%
その他 (設問以外の回答)	259	24.2%

⑥新型コロナウイルスの感染対策マニュアル等の準備

新型コロナウイルス感染対策マニュアル等を準備しているかは、準備しているが 86.3% (2,239 人) で準備していないが 13.7% (354 人) であった。

図表 37 新型コロナウイルスの感染対策マニュアル等の準備 (n=2, 593)



マニュアルの準備の有無	人数	割合
はい	2,239	86.3%
いいえ	354	13.7%

⑦今回のプロジェクトを知った経緯

今回のプロジェクトを知った経緯は、日本訪問看護財団ホームページが最も多く 42.6% (1,349 人)、次いで都道府県/市区町村訪問看護連絡協議会などが 12.4% (392 人)、次いで全国訪問看護事業協会が 9.4% (298 人) であった。

図表 38 今回のプロジェクトを知った経緯 (n=3, 168)

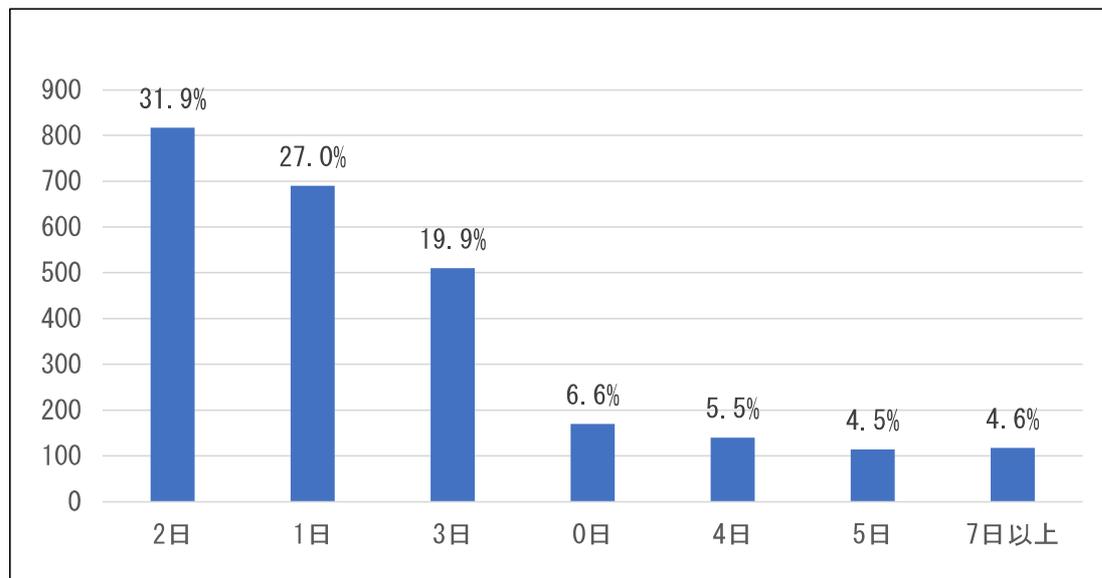
今回のプロジェクトを知った経緯	回答数	割合
日本訪問看護財団ホームページ	1,349	42.6%
都道府県/市区町村訪問看護連絡協議会など	392	12.4%
全国訪問看護事業協会	298	9.4%
日本看護協会	271	8.6%
日本訪問看護認定看護師協議会	204	6.4%
都道府県看護協会	192	6.1%
市町村のお知らせ	52	1.6%
都道府県のお知らせ	51	1.6%
MCS (MedicalCarestation)	41	1.3%
日本在宅ケアアライアンス	39	1.2%
感染防護具支援プロジェクト協力団体より	38	1.2%
Facebook	36	1.1%
笹川財団または日本財団ネットワーク	19	0.6%
地域包括支援センター	16	0.5%
キャンナス	9	0.3%
本財団発行「ほうもん看護」機関紙	4	0.1%
都道府県ホームヘルパー連絡協議会	3	0.1%
Twitter	1	0.03%
その他 (設問以外の回答)	153	4.8%

3) 本プロジェクトの体制

①申請してから到着までの日数

申請してから到着までの日数は、2日が多く 31.9% (817人)、次いで1日が 27.0% (690人)、次いで3日 19.9% (510人)であった。

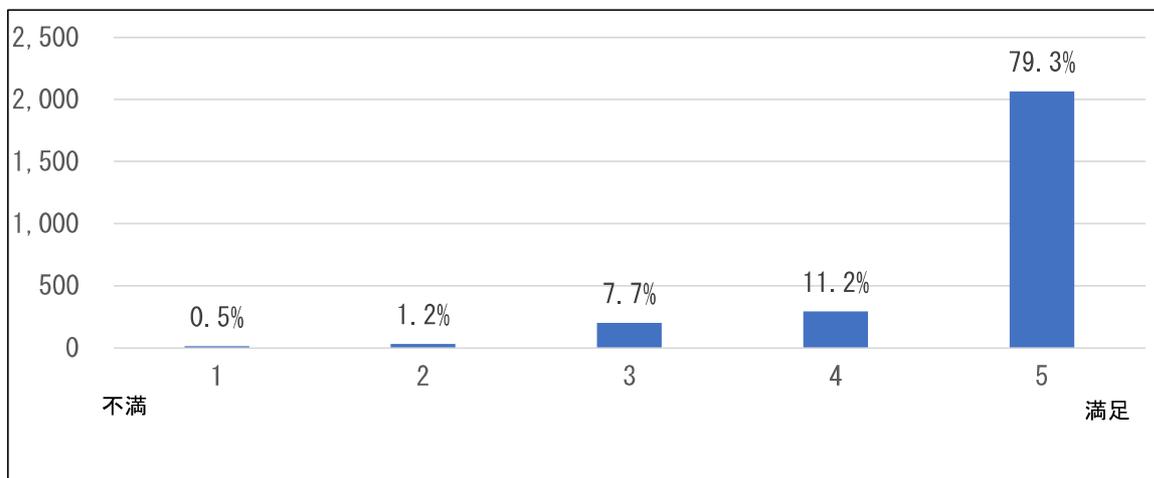
図表 39 申請してから到着までの日数 (n=2,558)



②申請から感染防護具到着までの日数についての満足度

申請から感染防護具到着までの日数についての満足度は、5 が最も多く 79.3% (2,067 人)、次いで4 が 11.2% (293 人)、次いで7.7% (201 人) であった。

図表 40 申請から感染防護具到着までの日数についての満足度 (n=2,605)



申請から感染防護具到着までの日数についての満足度	人数	割合
不満 1	13	0.5%
2	31	1.2%
3	201	7.7%
4	293	11.2%
満足 5	2,067	79.3%

4) 本プロジェクトの受益者

①感染防護具を使用した人・職種（複数選択）（n=4, 124）

感染防護具を使用した人・職種は、看護職が最も多く 56.4%（2,324 人）、次いで介護職が 12.2%（504 人）、次いでリハビリテーション職種が 10.3%（425 人）であった。

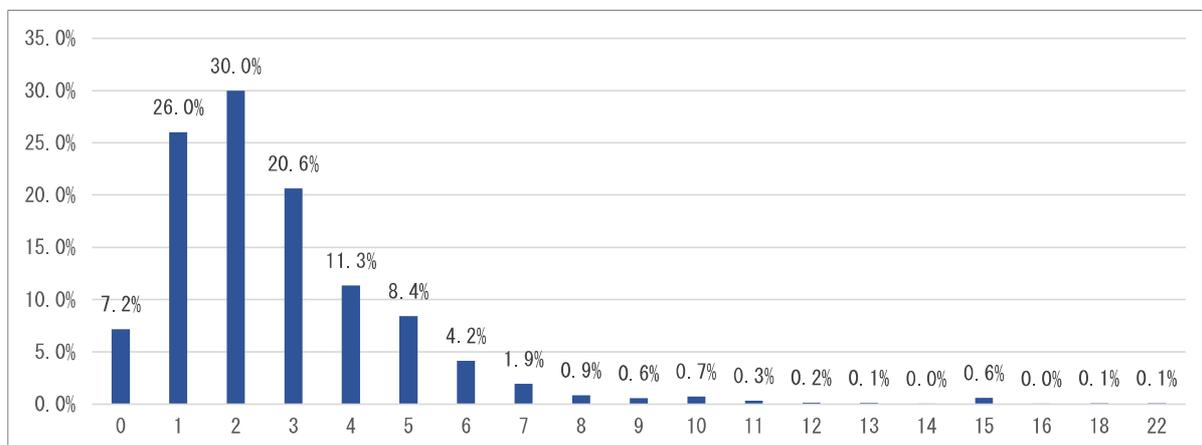
図表 41 感染防護具を使用した人・職種（複数選択）（n=4, 124）

送付された感染防護具を使用した人・職種	人数	割合
看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師）	2,324	56.4%
介護職（介護福祉士・訪問介護員）	504	12.2%
リハビリテーション職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	425	10.3%
療養者の家族	341	8.3%
療養者本人	292	7.1%
医師	104	2.5%
その他	69	1.7%
ケアマネジャー	55	1.3%
マッサージ師	4	0.1%
看護補助者	3	0.1%
薬剤師	2	0.05%
家政婦	1	0.02%

②感染防護具を使用した人のうち、「女性」の人数 (n=2,637)

送付された感染防護具を使用した人のうち、「女性」の人数は、2名が最も多く30.0%(698人)で、次いで1名が26.0%(605人)、次いで3名が20.6%で(480人)であった。

図表 42 受益者の状況 (n=2, 637)



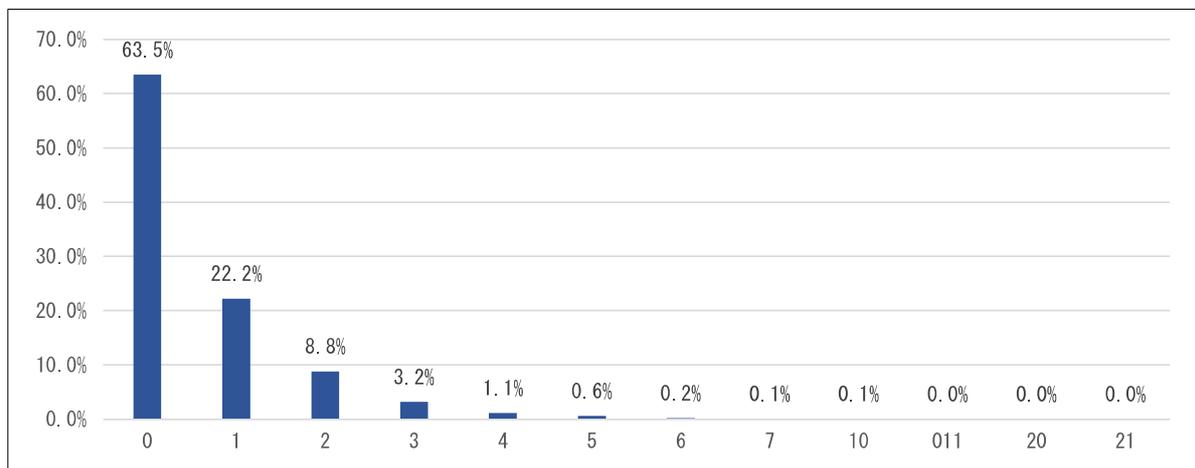
女性の人数	人数	割合
0名	167	7.2%
1名	605	26.0%
2名	698	30.0%
3名	480	20.6%
4名	264	11.3%
5名	196	8.4%
6名	97	4.2%
7名	45	1.9%
8名	20	0.9%
9名	13	0.6%

女性の人数	人数	割合
10名	17	0.7%
11名	8	0.3%
12名	4	0.2%
13名	3	0.1%
14名	1	0.0%
15名	14	0.6%
16名	1	0.04%
18名	2	0.1%
22名	2	0.1%

③感染防護具を使用した人のうち、「男性」の人数

送付された感染防護具を使用した人のうち、「男性」の人数は、0名が最も多く63.5%(1,675人)で、次いで1名が22.2%(586人)、次いで2名が8.8%(233人)であった。

図表 43 感染防護具を使用した人のうち、「男性」の人数 (n=2,637)



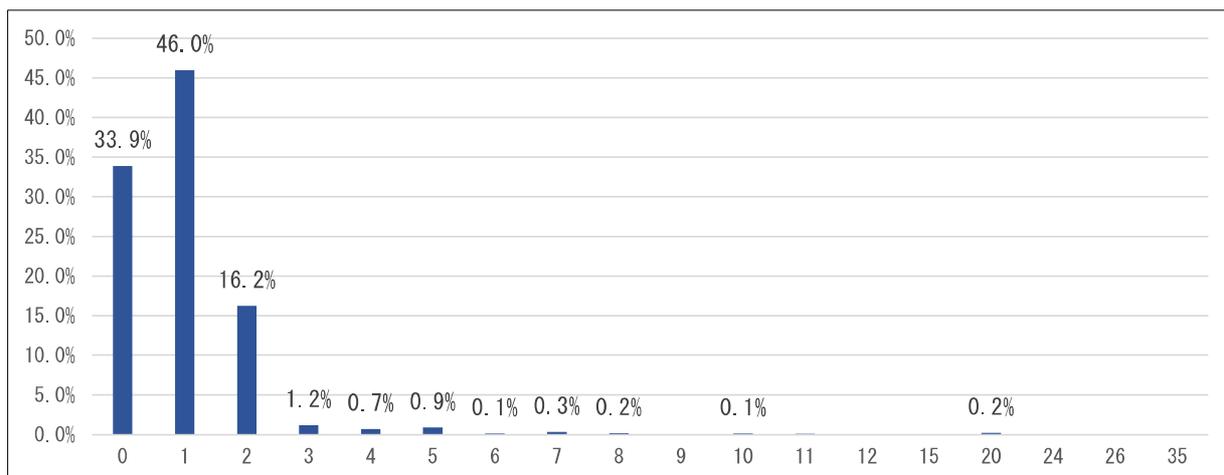
男性の人数	人数	割合
0名	1675	63.5%
1名	586	22.2%
2名	233	8.8%
3名	84	3.2%
4名	30	1.1%
5名	16	0.6%

男性の人数	人数	割合
6名	5	0.2%
7名	2	0.1%
10名	3	0.1%
11名	1	0.04%
20名	1	0.04%
21名	1	0.04%

④感染防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス（あるいは、医療保険サービス）の自己負担割合が1割以下の人」の人数

送付された感染防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス（あるいは、医療保険サービス）の自己負担割合が1割以下の人」の人数は、1名が最も多く46.0%(1,212人)で、次いで0名が33.9%(894人)、次いで2名が16.2%(428人)であった。

図表 44 感染防護具を使用した人のうち、「介護保険サービス（あるいは、医療保険サービス）の自己負担割合が1割以下の人」の人数 (n=2, 637)



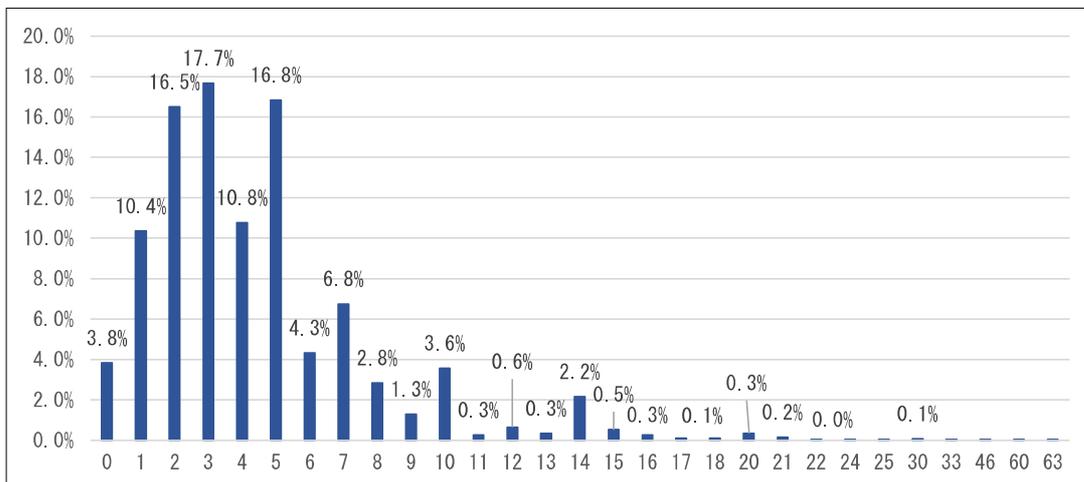
自己負担割合が1割以下の人	人数	割合
0名	894	33.9%
1名	1,212	46.0%
2名	428	16.2%
3名	31	1.2%
4名	18	0.7%
5名	23	0.9%
6名	3	0.1%
7名	8	0.3%
8名	4	0.2%

自己負担割合が1割以下の人	人数	割合
9名	1	0.0%
10名	3	0.1%
11名	2	0.1%
12名	1	0.0%
15名	1	0.0%
20名	5	0.2%
24名	1	0.04%
26名	1	0.04%
35名	1	0.04%

⑤感染防護具を使って訪問した「合計日数」

送付された感染防護具を使って訪問した「合計日数」の日数は、3日が多く17.7%(466人)で、次いで5日が16.8%(444人)、次いで2日が16.5%(435人)であった。

図表 45 感染防護具を使って訪問した「合計日数」(n=2,637)



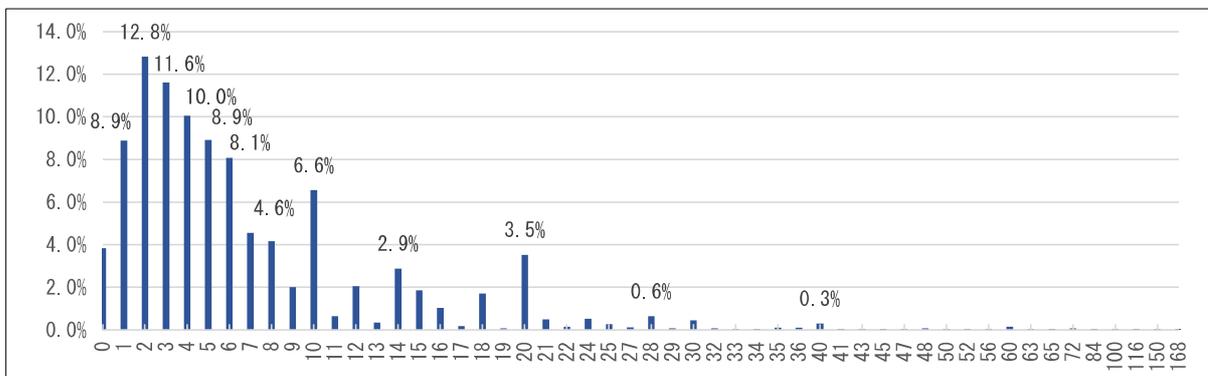
訪問した合計日数	人数	割合
0日	101	3.8%
1日	273	10.4%
2日	435	16.5%
3日	466	17.7%
4日	284	10.8%
5日	444	16.8%
6日	114	4.3%
7日	178	6.8%
8日	75	2.8%
9日	34	1.3%
10日	94	3.6%
11日	7	0.3%
12日	17	0.6%
13日	9	0.3%
14日	57	2.2%

訪問した合計日数	人数	割合
15日	14	0.5%
16日	7	0.3%
17日	3	0.1%
18日	3	0.1%
20日	9	0.3%
21日	4	0.2%
22日	1	0.04%
24日	1	0.04%
25日	1	0.04%
30日	2	0.1%
33日	1	0.04%
46日	1	0.04%
60日	1	0.04%
63日	1	0.04%

⑥感染防護具を使って訪問した「合計回数」

送付した感染防護具を使って訪問した合計回数は、2回が最も多く12.8%(338人)で、次いで3回が11.6%(306人)、次いで4回が10.0%(265人)であった。

図表 46 感染防護具を使って訪問した「合計回数」(n=2,637)



訪問した合計回数	人数	割合
0回	101	3.8%
1回	234	8.9%
2回	338	12.8%
3回	306	11.6%
4回	265	10.0%
5回	235	8.9%
6回	213	8.1%
7回	120	4.6%
8回	110	4.2%
9回	53	2.0%
10回	173	6.6%
11回	17	0.6%
12回	54	2.0%
13回	9	0.3%
14回	76	2.9%
15回	49	1.9%
16回	27	1.0%

訪問した合計回数	人数	割合
17回	5	0.2%
18回	45	1.7%
19回	2	0.1%
20回	93	3.5%
21回	13	0.5%
22回	4	0.2%
24回	14	0.5%
25回	7	0.3%
27回	3	0.1%
28回	17	0.6%
29回	2	0.1%
30回	12	0.5%
32回	2	0.1%
33回	1	0.04%
34回	1	0.04%
35回	3	0.1%
36回	3	0.1%

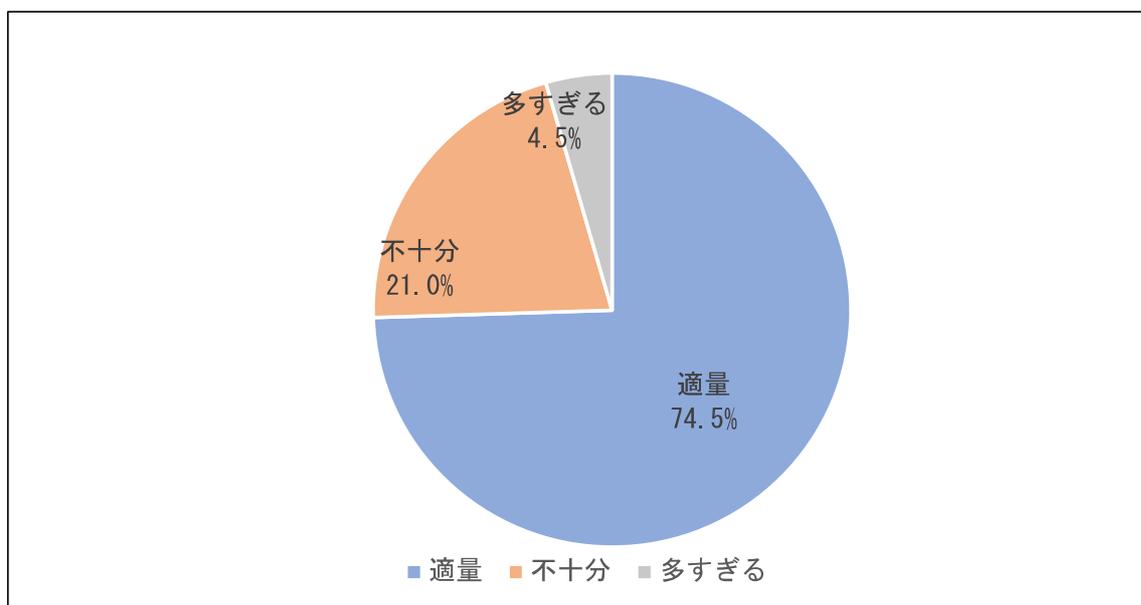
訪問した合計回数	人数	割合
40回	8	0.3%
41回	1	0.04%
43回	1	0.04%
45回	1	0.04%
47回	1	0.04%
48回	2	0.1%
50回	1	0.04%
52回	1	0.04%
56回	1	0.04%
60回	4	0.2%
63回	1	0.04%
65回	1	0.04%
72回	2	0.1%
84回	1	0.04%
100回	1	0.04%
116回	1	0.04%
150回	1	0.04%
168回	1	0.04%

5) PPE の量

① 「N95 マスク」 の量

今回のプロジェクトで配布した「N95 マスク」の量は、適量が最も多く 74.5% (1,934 人)、次いで不十分が 21.0% (546 人)、次いで多すぎるが 4.5% (116 人) であった。

図表 47 「N95 マスク」の量 (n=2,596)

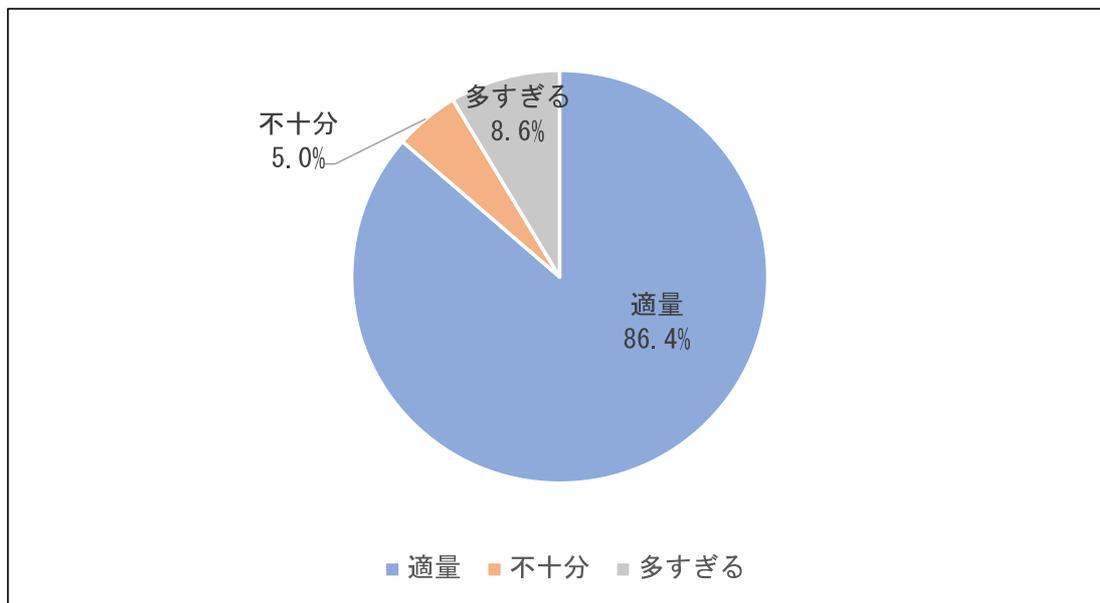


「N95 マスク」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	1,934	74.5%
不十分	546	21.0%
多すぎる	116	4.5%

②「サージカルマスク」の量

今回のプロジェクトで配布した「サージカルマスク」の量は、適量が最も多く86.4%（2,237人）で、次いで多すぎるが8.6%（223人）、次いで不十分が5.0%（130人）であった。

図表 48 「サージカルマスク」の量（n=2,596）

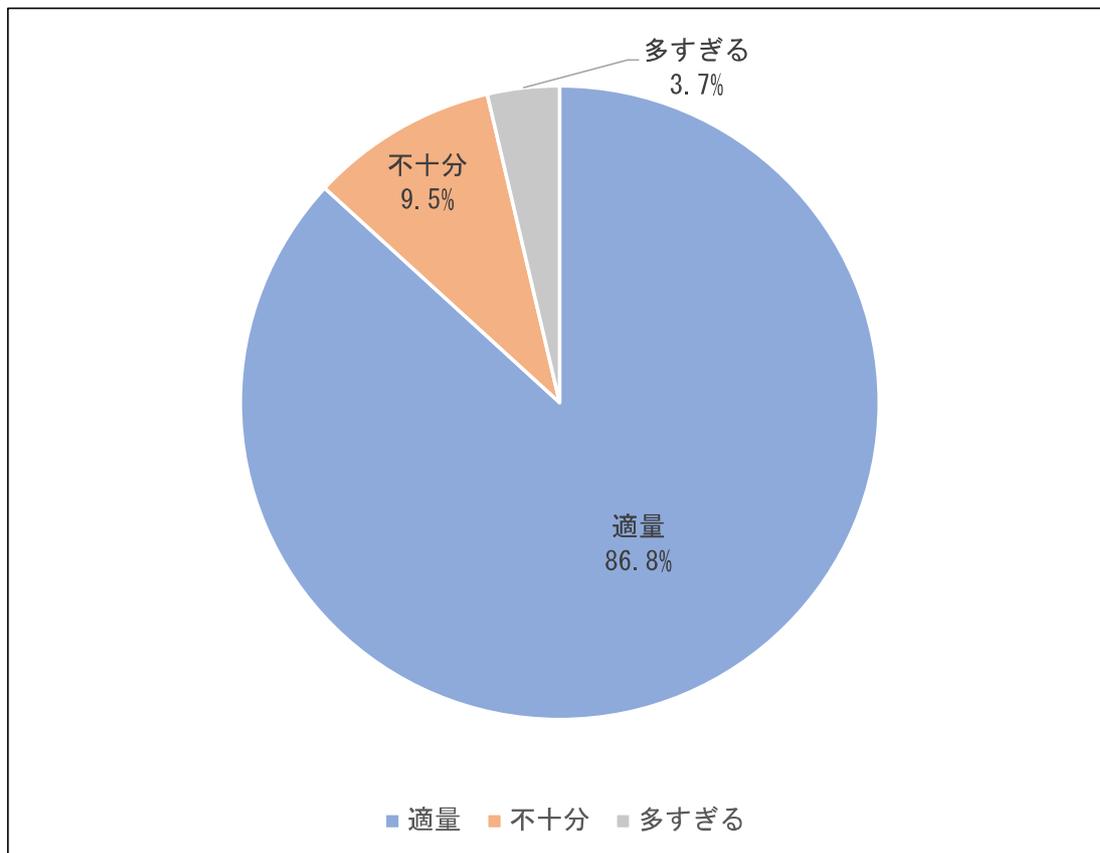


「サージカルマスク」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,237	86.4%
不十分	130	5.0%
多すぎる	223	8.6%

③「ガウン」の量

今回のプロジェクトで配布した「ガウン」の量は、適量が最も多く 86.8% (2,236 人) で、次いで不十分が 9.5% (245 人)、次いで多すぎるが 3.7% (94 人) であった。

図表 49 「ガウン」の量 (n=2,575)

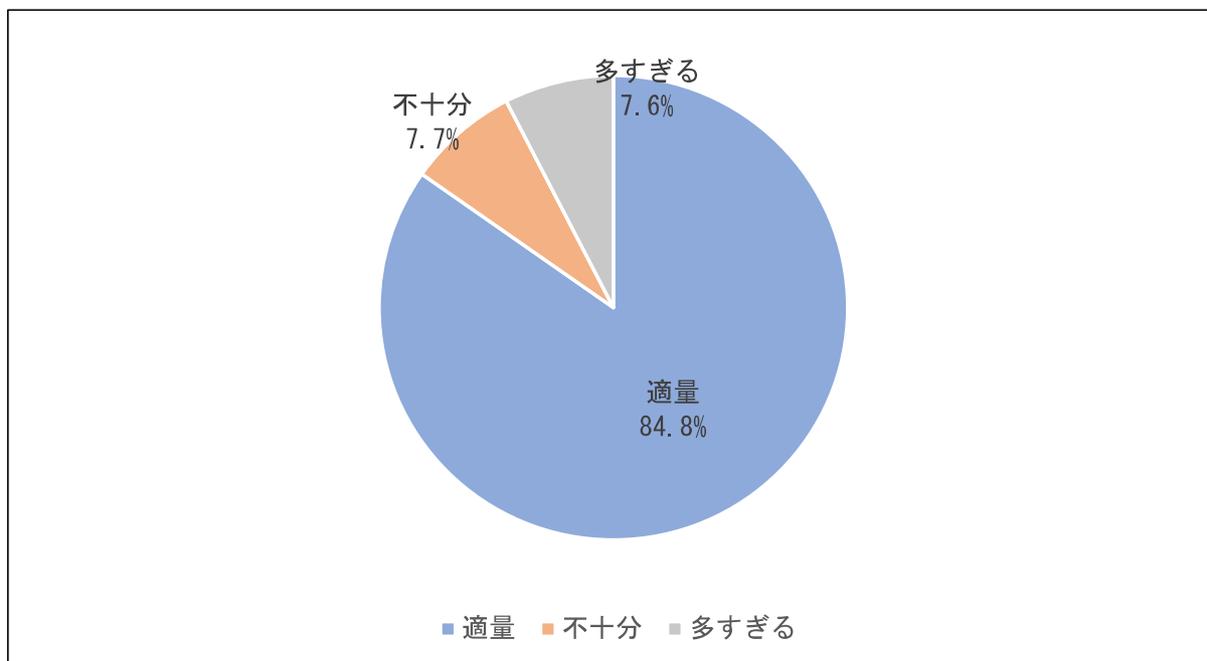


「ガウン」の量は十分でしたか?	人数	割合
適量	2,236	86.8%
不十分	245	9.5%
多すぎる	94	3.7%

④「手袋」の量

今回のプロジェクトで配布した「手袋」の量は、適量が最も多く 84.8% (2,198 人) で、次いで不十分が 7.7% (199 人)、次いで多すぎるが 7.6% (196 人) であった。

図表 50 「手袋」の量 (n=2,593)

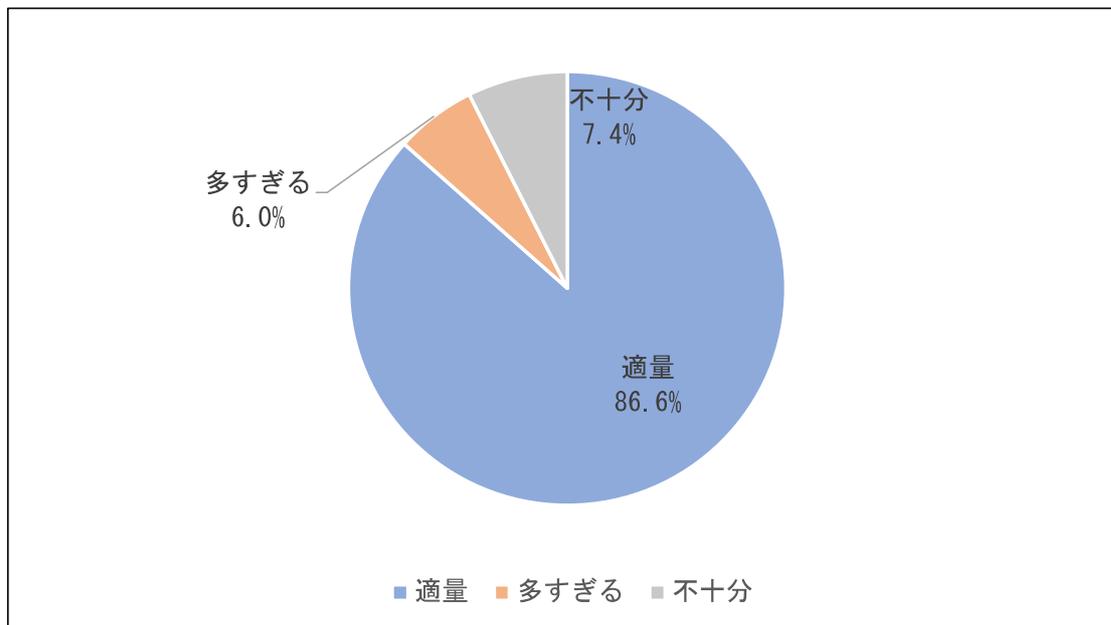


「手袋」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,198	84.8%
不十分	199	7.7%
多すぎる	196	7.6%

⑤「フェイスシールド」の量

今回のプロジェクトで配布した「フェイスシールド」の量は、適量が最も多く86.6%（2,234人）で、次いで不十分が7.4%（191人）、次いで多すぎるが6.0%（155人）であった。

図表 51 「フェイスシールド」の量（n=2,580）

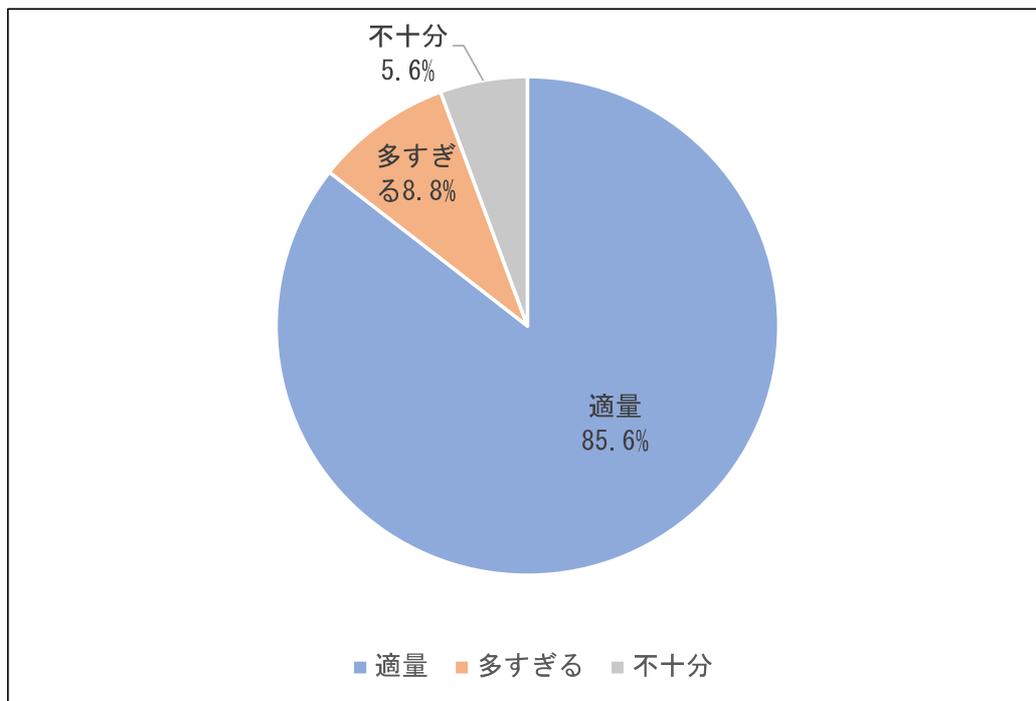


「フェイスシールド」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,234	86.6%
多すぎる	155	6.0%
不十分	191	7.4%

⑥「ヘアキャップ」の量

今回のプロジェクトで配布した「ヘアキャップ」の量は、適量が最も多く85.6%（2,201人）で、次いで多すぎるが8.8%（227人）、次い不十分が5.6%（144人）であった

図表 52 「ヘアキャップ」の量 (n=2,572)

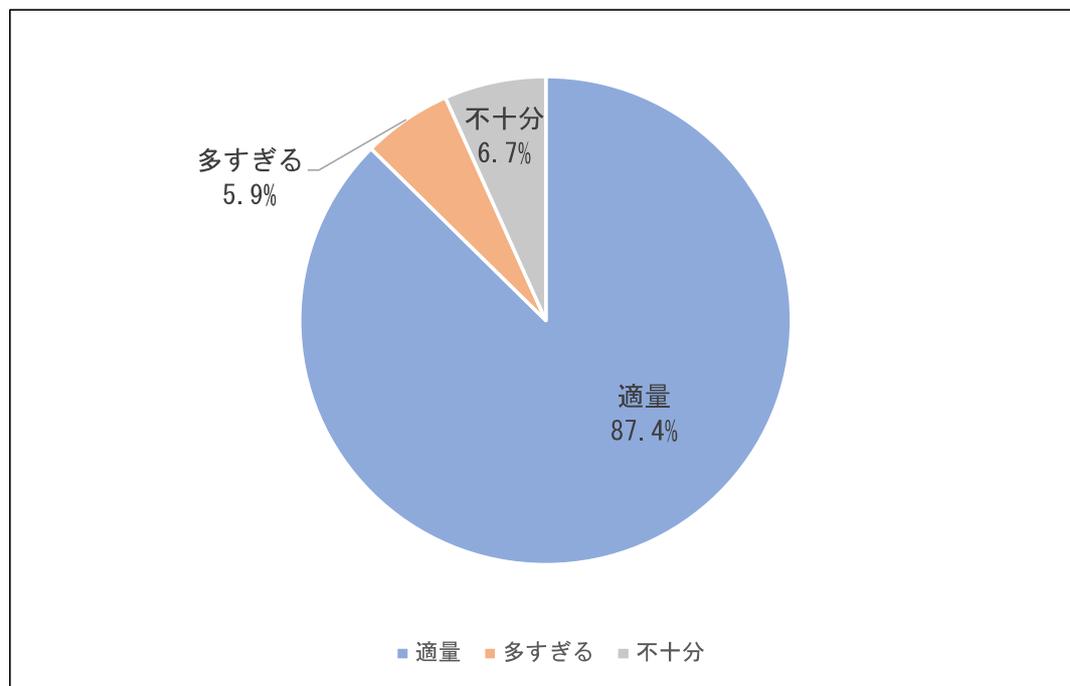


「ヘアキャップ」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,201	85.6%
多すぎる	227	8.8%
不十分	144	5.6%

⑦「消毒液」の量

今回のプロジェクトで配布した「消毒液」の量は、適量が最も多く 87.4% (2,241 人) で、次いで不十分が 6.7% (171 人)、次いで多すぎるが 5.9% (151 人) であった。

図表 53 「消毒液」の量 (n=2,563)

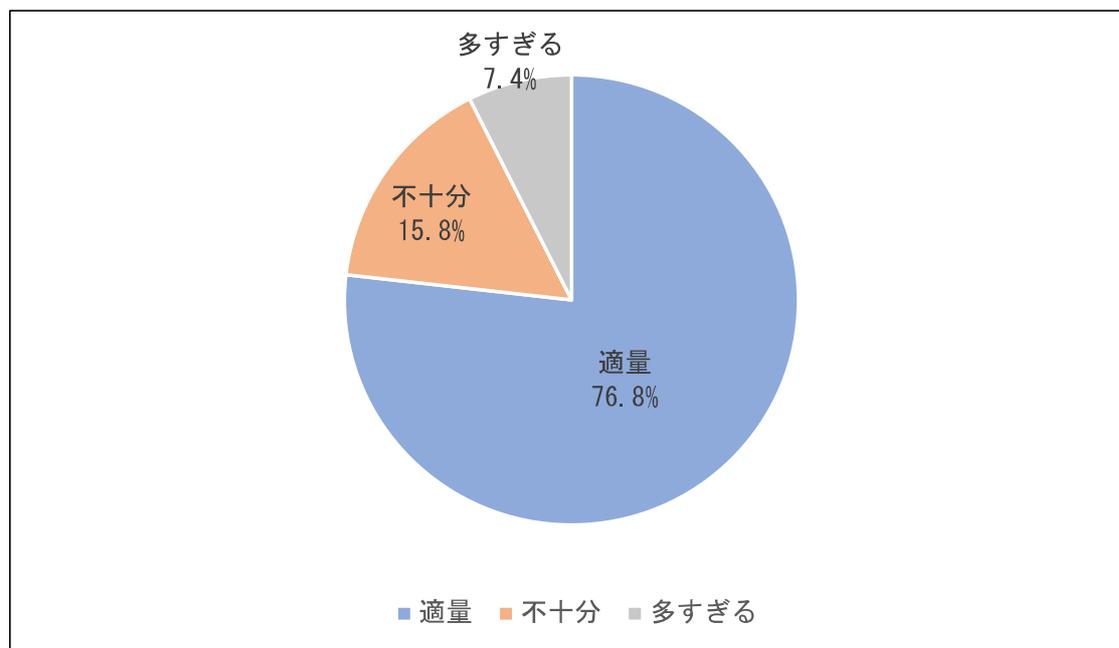


「消毒液」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,241	87.4%
多すぎる	151	5.9%
不十分	171	6.7%

⑧「スリッパ」の量

今回のプロジェクトで配布した「スリッパ」の量は、適量が最も多く 76.8% (1,971 人) で、次いで不十分が 15.8% (406 人)、次いで多すぎるが 7.4% (190 人) であった。

図表 54 「スリッパ」の量 (n=2,567)

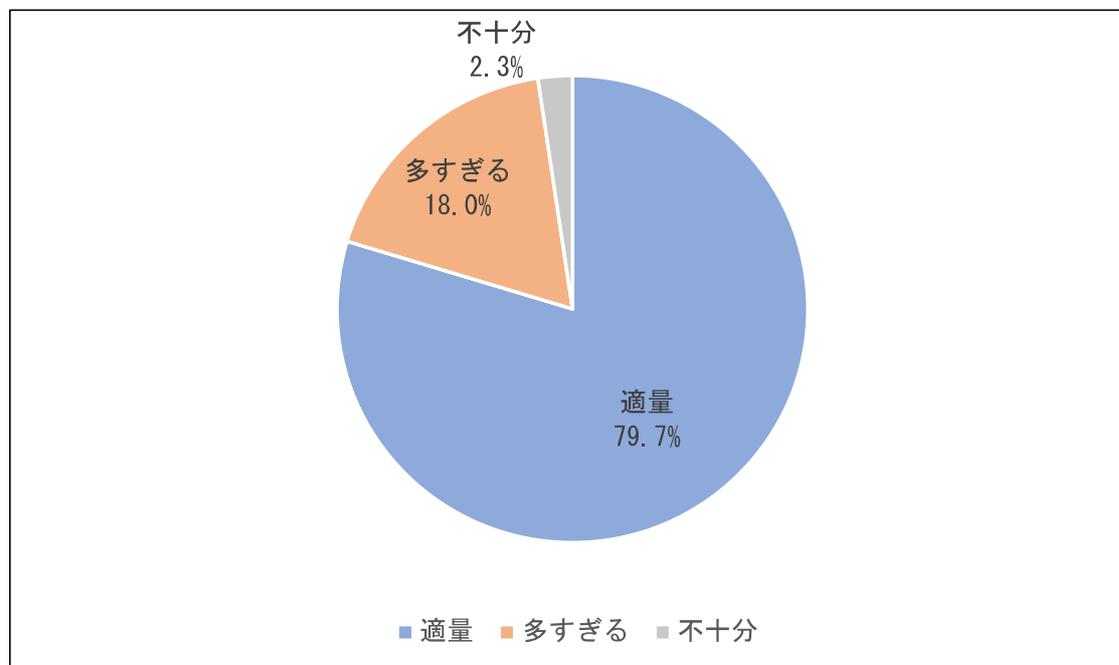


「スリッパ」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	1,971	76.8%
不十分	406	15.8%
多すぎる	190	7.4%

⑨「ゴミ袋」の量

今回のプロジェクトで配布した「ゴミ袋」の量は、適量が最も多く 79.7% (2,070 人) で、次いで多すぎるが 18.0% (467 人)、次いで不十分が 2.3% (61 人) であった。

図表 55 「ゴミ袋」の量 (n=2,598)



「ゴミ袋」の量は十分でしたか？	人数	割合
適量	2,070	79.7%
多すぎる	467	18.0%
不十分	61	2.3%

⑩その他、不足物品

配布されたPPEまたは不足した物品について自由回答を以下のように得た（図表56・57）。

図表 56 不足物品（n=589）

不足したもの	回答数
不足したものはない	239
シューズカバー	190
N95 マスク	34
使い捨てズボン	20
ゴーグル（フェイスシールドのかわり）	19
アルコール消毒液とアルコール手指消毒液	17
手袋	15
ガウン	10
シャワーキャップ	6
使用后処理バッグ類/小ビニール袋	6
アルコールシート	5
フェイスシールドの曇り止め	5
ゴミ袋	4
体温計	4
パルスオキシメーター/SpO2 モニター	4
ペン、紙、マジック類、養生テープ	4
フェイスシールド	2
ペーパータオル	2
ジップロック	2
うがい薬	1

図表 57 その他不足物品（回答原文ママ）

項目	自由記述
消毒液	陽性者対応の場合、アルコールはジェルタイプより水様の方が衣類に吹きかけたりできるので便利だと気付きました。
	利用者宅に置いてくる小さめの手指消毒ポンプが複数あると良い。
	液体のアルコール消毒液が欲しかった。フェイスシールドではなくゴーグルの方が動きやすい。フェイスシールドは手が当たったり、聴診器がかけにくかったり。
	手指衛生アルコールはジェルではなく液体の方が使用しやすいです。
	可能であれば、消毒薬は小さい容器に入った分が便利。また、ウェットテッシュ（アルコール）もあれば便利かもしれません。
マスク・フェイスシールド	訪問を短時間に効率よく行うために出来るだけ複数名で計画しました。不足したのは N95 マスクでしたので足りなかった。購入するまでのつなぎは出来ました
	フェイスシールドの紐が切れたのでテープで固定して使用した。
	フェイスシールドはアルコールで拭いて再利用。スリッパはこちらで準備したものでアルコール清拭・噴霧で使用していました。
	N95 マスクのゴムが少し弱くて切れやすく心配でした
	N95 マスクのゴム切れが起き、交換することになり不足した。手袋は、処置内容の多い利用者さんだったため不足した。（洗腸、摘便、吸引）
	N95 マスクは高すぎて手に入らない
	KN マスク？N95 よりもレベルを下げてよいと思うのでウイルス対策マスクが欲しい
ゴミ袋	ゴミ袋が半透明で中身が見えにくいもののほうがありがたい。
	ゴミ袋は 45L だったので、30L で同枚数あった方が良い。小さなビニール袋も入れて欲しい。オムツ・パッド・手袋などを入れて封をしたい。
	ゴミ袋は大きいだけでなく買い物袋サイズがあると重宝します
	1 人用の防護服が処分できるサイズのビニール袋
	大きい袋も役に立ちましたが、ジップロックのような高級なものではなくてもよい。

項目	自由記述
ゴミ袋	在宅で使用するにはゴミ袋が大きすぎるように感じた。
	ゴミ袋は透明な袋でなく半透明の方が良いと思う。
	透明ビニール袋はもう少し小さいサイズのものでも良かったです。
ヘアキャップ・ガウン	男性にはMサイズが小さく着用が難しかった (2)
	ガウンが女性看護師のため大きすぎた、
	ガウンは貴重なのでなかなか使えないので気軽に使える量例えば 50 枚くらいいただくと助かります
	暑さのためにガウンがかなり辛く袖なしでも対応することも増えています (4)
	シールドも出来れば眼だけを保護する (アイシールド) もあったら良かった。
	在宅は膝をつく場合が多く使い捨てのズボンがあるといい
	現在、20 人分の防護服を用意し、社用車に常備しました
手袋	看護師は援助ごとに手袋を交換するので不足と感じたが、リハ職・ヘルパーは訪問で1組使いが多いため、不足と感じなかった。
	手袋が M サイズで女性スタッフ全員サイズが合わずにステーションのものを使用した。S サイズだとありがたかった。(2)
	手袋はロングタイプが良いです
スリッパ・足袋・シューズカバー	使い捨て足袋を買いました
	在宅では布団生活の方もおり、施設のベッド生活と異なり、どうしてもしゃがむ場面がありました。腕カバーを上腕と下腿に装着し露出しないように装着した。また、スリッパでなくシューカバーを用意した。
	できれば、スリッパではなくシューズカバーの方が側部全体を覆って良いと思いました
	独居で物が多くスリッパでは転ぶので、シューズカバーを用意しました。
	頂いたスリッパを汚染しないよう、スリッパに足カバーをかけて使用しました。足元に対してどこまで予防策をとるべきかの基準が把握できていない部分があるのですが、使用したスリッパを使いまわす事が心配だった事と、都度使い捨てにするにはコストとしてどうなのだろうかと考え、事業所として購入していた足カバーを使用したため、今後ご検討頂けると幸いです。
量について	量が不足 (3)
	EK の悪化により 3 日目に亡くなられたので今回十分な量を頂けたと思っています。
量について	一人に対しての量は十分であったが、感染者が増えると全然足りな

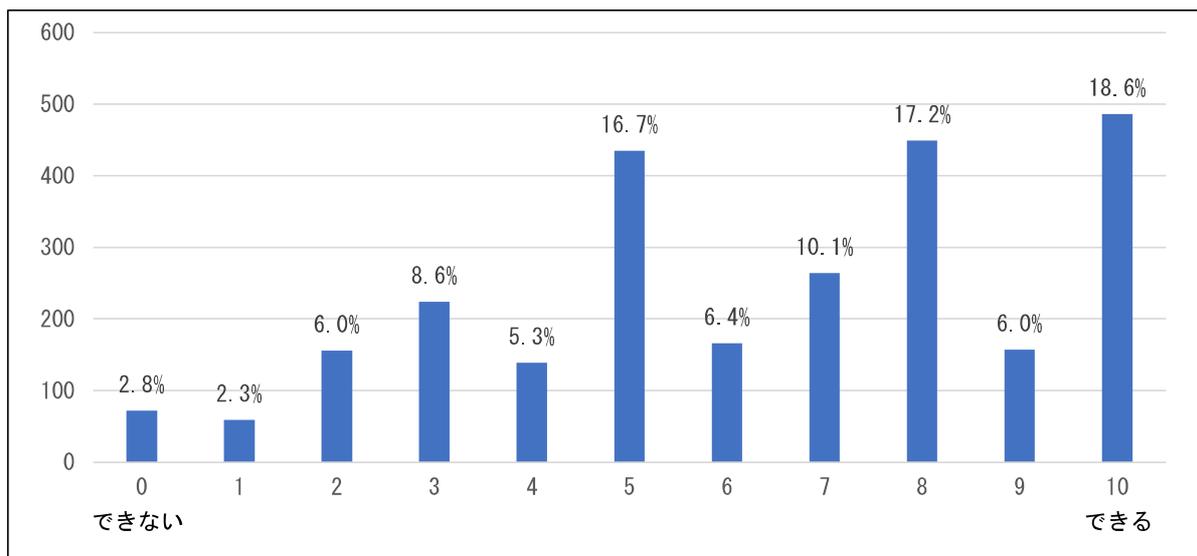
項目	自由記述
	<p data-bbox="592 286 620 315">い</p> <p data-bbox="592 331 1225 360">感染予防セットとして一式のセットを作って欲しい。</p> <p data-bbox="592 376 1422 501">元々週 1 回の訪問でしたので足りました。万が一、家族が陽性になった場合、医療処置があり連日の訪問が必要となると想定していた為、防具がすぐにそろい、安心しました。</p> <p data-bbox="592 517 1422 591">今回のケースでは十分な量でしたが、コロナに感染した方に対応する期間によっては N95 マスク 5 枚はすくなくないように感じました。</p> <p data-bbox="592 607 1422 680">今回は感染防護具を使用しておりませんが、もし使用となった場合は全体的に数が少ないかと思えます。</p> <p data-bbox="592 696 1422 770">コロナ疑いで PPE 必要な利用者は複数名申請予定だったが 1 名分しか入手できなかった。</p> <p data-bbox="592 786 1422 860">コロナ疑いで PPE 必要な利用者は複数名申請予定だったが 2 名分しか入手できなかった。</p> <p data-bbox="592 875 1294 904">数が不足したので保健所より備蓄防護用品の支援を受けた</p> <p data-bbox="592 920 1422 994">上記より、ガウン、マスクが多く、フェイスシールドはなくてもいい。</p>
未使用について	<p data-bbox="592 1010 1337 1039">到着が遅かったため、使用しませんでした。今後に使います。</p> <p data-bbox="592 1055 1066 1084">実際に使用しなかったので分からない。</p> <p data-bbox="592 1099 1011 1128">実際に使用開始には至らなかった。</p> <p data-bbox="592 1144 1362 1173">実際使用するなら手袋がもう少し多ければいいなと思いました。</p> <p data-bbox="592 1189 1155 1218">6 日後に届いたため、当人には使用していない</p> <p data-bbox="592 1234 1011 1263">ジブロックは使用しませんでした。</p>

6) スタッフの安心感

①PPEの使用によるスタッフの安心した訪問

今回のPPEを装着することでスタッフが安心して療養者宅へ訪問できるかは、10が最も多く18.6% (486人)で、次いで8が17.2% (449人)、次いで5が16.7% (435人)であった。

図表 58 スタッフの安心した療養者への訪問 (n=2,607)

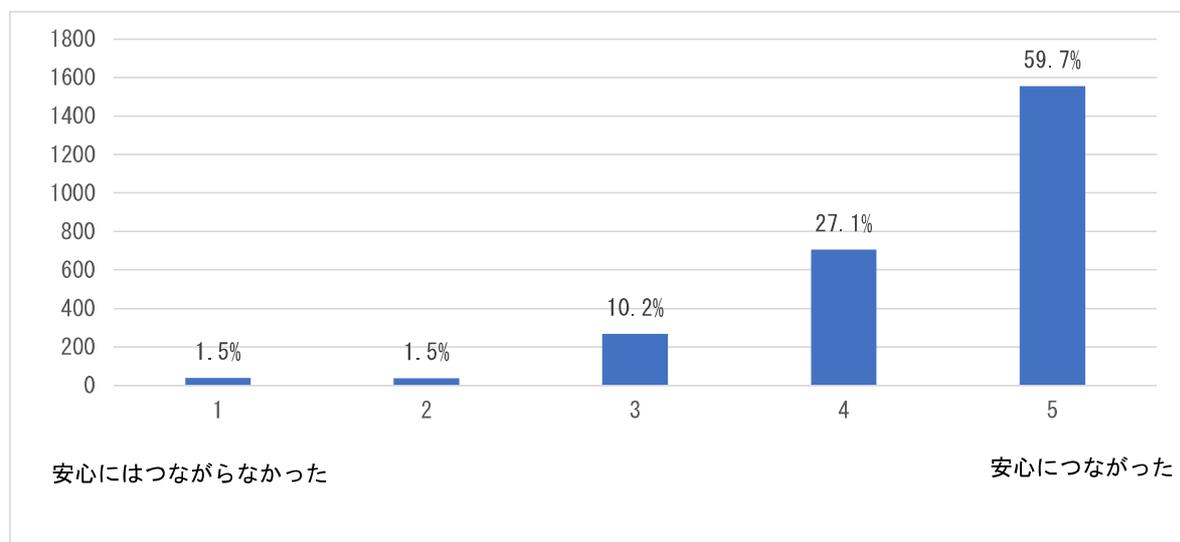


現在、（今回対象となった療養者に限らず）全体として、 スタッフが安心して利用者の家に訪問できる	人数	割合
できない 0	72	2.8%
1	59	2.3%
2	156	6.0%
3	224	8.6%
4	139	5.3%
5	435	16.7%
6	166	6.4%
7	264	10.1%
8	449	17.2%
9	157	6.0%
できる 10	486	18.6%

②本プロジェクトは利用者の家に訪問するスタッフの安心感

今回の PPE を装着することで利用者の家に訪問するスタッフの安心感は、5 が最も多く 59.7% (1,555 人) で、次いで 4 が 27.1% (706 人)、次いで 3 が 10.2% (267 人) であった。

図表 59 本プロジェクトの利用者の家に訪問するスタッフの安心感 (n=2,606)



本プロジェクトが利用者の家に訪問するスタッフの安心感につながった	人数	割合
安心感にはつながらなかった 1	40	1.5%
2	38	1.5%
3	267	10.2%
4	706	27.1%
安心感につながった 5	1,555	59.7%

7) プロジェクトの改善点などの自由コメント

本回答は自由記載で、1,443 件の回答があり「本プロジェクトがスタッフの安心につながった」「備蓄もさせて欲しい」「必要なタイミングで届いた」「引き続き継続して実施して欲しい」等の意見があり、日本財団に本事業の継続を申請した。また、物資に関しては、「スリッパでなく、シューズカバーを希望する」「手袋はフィットするニトリルタイプがいい」「小さめのごみ袋が欲しい」「小さなステーションでは、N95の調達が大変だったので助かった」「十分な量だった」「装着方法のリーフレットや YouTube があって助かった」「無料で提供され助かった」「マニュアルを作成して欲しい」「段ボールを小さくして運びやすくしてほしい」「夏は暑くて大変だった」等の意見があり、第 2 弾の支援物資の参考にしていく。さらに「行政でも本プロジェクトのような PPE を準備して欲しい」や「介護福祉士への教育に活用した」「本事業を知らなかった」などの意見もあり、広報活動や第 2 弾の活動へ活かしていきたい。

第4章 本プロジェクトの状況と今後の活動

1. 本事業への写真提供と感謝メールの文面

本プロジェクトに関して、多くの対象者からお礼の写真やメールの文章が送られた。その中の写真を巻末資料8に示した。さらに代表的なメール文をそのまま掲載した。

図表 60 感染防護具セットの活用報告

日付	都道府県	自由記述内容
2020年 9月10日	兵庫県	いつも大変お世話になっております。この度は防護服装着時の写真を送付させていただきます。私たち M 事業所では、重症患者や重症児を多く受け入れています。その為、訪問時に持ち込まない、持ち帰らない、移さない、を徹底し、日常生活でも感染対策を徹底するようスタッフ全員に指導をしております。感染予防を優先し、マスクや手袋、消毒液などを始め、たくさんの衛生用品を消費しているので、このような支援を頂きとても助かっています。今後共、何卒よろしくお願い申し上げます。
2020年 9月15日	A 県	お世話になっております。コロナ対策感染予防グッズありがとうございます。今まで、100円ショップのカップや花粉症対策防護眼鏡、フェイスガード、手袋で対応しているので、本当に助かりました。今回届いた感染防護を用いた、訪問看護ステーション K での単身型グループホーム感染防護対策の写真になります。発熱がない利用者様も、事務所に入る際は、玄関にクリアパーテーションを使って、玄関前で体温測定を行っております。単身型グループホームなので、各利用者で玄関は別々ですが、部屋の中に入る際に、一応感性エリアと清潔エリアをマーキングして、通る方向をなるべく一方通行にしています。発熱時に部屋で出たゴミは玄関の外に出してもらおう（他の利用者が分かるようにマーキングをして感染エリア内にごみをだす）職員が回収するようにしています。着替えも玄関前で脱いでゴミに出して他の利用者を持ち込まない様にしています。
2020年 12月4日	H 県	この度は、2度目の感染防護具を頂きありがとうございました。しかも、早急な対応に感謝しています。都道府県や市より感染防護具の配布状況が異なります。大変助かりました。感染防護具支援プロジェクトに感謝致します。訪問看護は、発熱者も陽性者も拒否ができません。また、機能強化型 I のステーションとして、地域のために感染知識を習得した私達が主となり頑張っていく意向です。

日付	都道府県	自由記述内容
2020年 12月7日	N県	<p>常日頃大変お世話になっております。この度は感染防御具のセットを頂きまして、ありがとうございます。当ステーションでは、今回利用者が濃厚接触者の疑いが強くなり、検査結果が判明するまでの間、防護具を着用し訪問を継続致しました。結果陰性であり、事なきを得ましたが・・・他にも、ディケアで感染者が出て濃厚接触になった利用者の訪問時、熱発でPCR検査の結果を待っている利用者の褥瘡ケアの訪問時に使用させて頂きました。写真撮影の許可を頂いた一人の方の写真を送付致します。市中感染が広がるなか、時期的にも発熱者が多くなり、予防的に防護具を着用する機会が多くなっています。今後とも、よろしくお願い致します。</p>
2020年 12月9日	北海道	<p>予防防護具のセット、ありがとうございます。おかげさまで、対象者3名に対する訪問が安全に行われており、職員も安心しております。但し、北海道では感染拡大が進んでおり、特に弊社の訪問エリアでの病院・デイサービス等の事業所では相当数の感染者が確認されておりますので、周知文が届くたびに不安視する状況が続いております。今後もこの状況は続くと思われるのでご利用者の安全と職員の安心を確保するための対策は徹底しており、掛かる経費の負担減と支援して下さる企業様がいることは、職員に周知し一同で感謝しております。本当にありがとうございました。</p>
2021年 1月8日	H県	<p>この度は、早速に感染防護具を送っていただきありがとうございました。12月にご利用者のご家族が感染され、引き続いてご利用者ご夫婦が感染されました。ご家族の感染が分かった時点で訪問のお休みの連絡をいただいておりますが、感染が分かった週の前の週に訪問した担当者（理学療法士）が健康観察者に該当し、鼻汁がありPCR検査を受けさせていただいたところ陽性の結果でした。陽性になった職員は嗅覚障害が残っているようですが、回復して退院しております。担当者の訪問時は、ご利用者夫婦に発熱や風邪症状もなくマスクも着用していただいております。担当者もマスク、フェイスシールド、手指消毒も行い対応させていただいていたのですが、外気を入れる換気が不十分であり、これが感染につながった要因かと考えております。今回、陽性になったご利用者ご夫婦は入院されて無事に退院されましたが、体調は安定しているとの事で、ご利用者から1月の利用はお休みしたいとの申し入れがあり訪問をお休みしているところです。セットが届いた現在、このセットはまだ使用に至っておりません。事業所としても防護具は準備しておりますが、感染防護具セットをいただき、感染防護具の着脱についての確認を行うことができました。事業所としても防護具は準備しておりますが、職員には必要時に使用できる安心感につながったと感じております。今後、職員と介護者を感染から防護できるように対応していきたいと思</p>

日付	都道府県	自由記述内容
		ます。
2021年 1月19日	H県	<p>感染防護具支援プロジェクト事務局の皆様へ</p> <p>この度は、貴重な防護具を送ってくださり有難うございました。</p> <p>スタッフ一同心より御礼申し上げます。日々、感染予防を徹底して訪問にあたっておりますが、この時期、他の原因での熱発も多く、そんな場合でも、適宜コロナ感染症も想定しながらの訪問を行っております。コロナ感染症の先行きが今だ見えない中、今回の支援は有難く、物品と共に力強いエールを頂きました。この頂いたエールを地域に活かして参ります。</p>
2021年 1月29日	兵庫県	<p>いつも大変お世話になりありがとうございます。</p> <p>小さなステーションにとって感染防護に関する物品が品薄になったりすることは非常に致命的となるわけですし、第一波の際には本当に困りました。その時からですが、ディスポのエプロンをごみ袋で作成し、(作成した型紙あり！笑) レベルアップし防護服(袖付き)を自身で作成したりするようになり「職人技」にまでなったりしております。(笑)しかしこれに間に合わないほどの事態も想定できるため、気が抜けない状況と益々なってきております。この取り組みに感謝しており、是非とも継続をしていただけます様節に願います。ありがとうございました。もっといろいろな写真が送れたら良いのですが・・・どうぞよろしく願いたします。</p>
2021年 2月12日	静岡県	<p>今月初めに、感染防護具支援プロジェクトのことを知り、早速申し込みをさせて頂きました。申込をした翌日の午前中に防護具セットが届き、ご対応の早さに皆で非常に驚きました。</p> <p>頂いたダンボール箱を開け、中身を確認したところ、防護具の充実ぶりに感動しました。ぜひ、皆さんにもこの事業の事を拡げて頂きたく、微力ながらご協力をさせて頂きたいと思い、メールを送らせて頂きます。残念ながら、訪問先で支援している画像はお送りできませんが、事務所で撮ったものでよければ、お役立てください。</p> <p>コロナ禍にあって、私たちがいろいろな方に支えられていることを実感します。利用者様の支援に、誠心誠意つとめてまいりたいと思います。</p>
2021年 2月18日	東京都	<p>感染防具の備蓄はありましたが、他の利用者さんも防護具対策が必要になり、N95マスクが不足しました。N95は人によりサイズ選定が必要で、想定よりも多くの利用者が出たことが原因で不足してしまいました。改めて課題として対策して、現在は充足してきました。区内のステーションでも財団の活動を広めて、急な利用者増加などにも対応できるよう、微力ではありますが、地域での看護体制を整えていけるよう引き続き頑張ります。寄付して頂いている企業様へも、活動報告と合わせて、お礼の伝達願いたします。本当にありがとうございました。</p>

日付	都道府県	自由記述内容
2021年 4月28日	S県	<p>どこも厳しい状況が続きます。あちこちで悲しい現実を聞きます。</p> <p>当事業所でも先月73歳の男性が陽性でした。連休を挟み、毎日高熱が続きましたが、主治医の病院で受け入れできず、薬局でコロナールを購入してもらいしか方法がなく私たちも最低限のケアしかできませんでした。その間、保健所や病院へ何度か報告を入れていますが・・・保健所は「医療機関からまだ連絡がない」、病院は「受け入れはしていない、何かあればどこかに救急搬送」の返事でした。こんな状況なので、在宅医も見つからずでした。</p> <p>10日経ってやっと、保健所から指示がきました。この時点で、医療機関が保健所に届け出ていなかったことがわかりましたが、とりあえず、同居の奥様（陽性）は、10日経ったので解除と言われました。ところが訪問看護師は、10日前（陽性前日）に入浴介助をしていたため、濃厚接触者として対応してくださいと言われました！</p> <p>奨励のPPE（財団支援分）を全て使用して、対面を避けて短時間での介助したことを説明し、再度保健所内で検討いただき、今回は濃厚接触にあたらないと判断されました。本人は39°Cが続いており、丁度保健所から連絡があった日の14時の訪問時に、急変しました。サーチは96%から70%になり、病院、保健所へ連絡し救急車を呼びました。保健所は救急車で判断！と言い、救急隊からは保健所の判断！を求められ、結局保健所が探すことになり、その間、自宅で酸素投与し指示を待ちました。自宅で亡くなっていたら、どうするんだ！何もできない時間、待たされる事に、スタッフの苛立つ気持ちが伝わってきました。奥様も不安でいっぱいでしたので、看護師は17時30分（3時間半）付き添いました。しかし、受け入れ先は中々無く、医師が3時間探しても受け入れ先が無い場合に待機部屋に連絡すると言われ、全く先が見えない状況でした。酸素でサーチが90台に回復、症状もやや安定したので救急隊に任せて、看護師を一旦引き上げさせました。〇〇市の事もあり、本人や奥様の事を思うと後ろ髪をひかれる思いでしたが、私の中では3時間半が限界でした。夜の10時過ぎに遠方の病院に受け入れできたと連絡が入り、ほっとしました。救急車を呼んでから1日、2日というケースもあったそうで、7時間近くは・・・まだ、マシな方・・・は、おかしくても、今は当たり前になっています。みな、一所懸命にそれぞれの役割に努めていると思いつつ、後手に回さざるを得ない対応にモヤモヤが止まりません。今回、使用した防護具は全て破棄しました。もったいない気持ちと何時でも支援してくれる安心感に甘えています。ありがとうございます。</p>

2. 今後の実施状況

2020年5月29日から開始した本事業は2022年3月31日をもって第1弾が終了した。同時に2021年12月3日より感染防護具支援プロジェクト第2弾が開始した。2022年3月時点で首都圏ではまん延防止等重点措置が実施されており、引き続き感染防護具の必要性がある。全国の訪問看護師が安心して訪問看護が実施できるよう準備を進めていく。

2022年3月31日